

国立国語研究所学術情報リポジトリ

<全文>日本語新発見：世界から見た日本語：
国立国語研究所第5回NINJALフォーラム

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2017-03-15 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00000905

国立国語研究所 第5回NINJALフォーラム

日本語新発見

—世界から見た日本語—

◆ 基調講演 世界の言語から見た日本語・日本語から見た世界の言語 角田 太作

◆ 講演 1 近くて遠い、遠くて近い、フィリピンのことば タガログ語と日本語 片桐真澄

◆ 講演 2 日本語と韓国語、どこが似ている、どこが違う 金廷珉

◆ 講演 3 アイヌ語は日本語に似たようなものか？ アンナ・ブガエワ

◆ 講演 4 日本語に特有と言われる現象はアフリカにもある…

シダーマ語(エチオピア)の場合 河内一博

◆ パネルディスカッション 角田 太作 / 片桐真澄 / 金廷珉 / アンナ・ブガエワ / 河内一博 /

ジョン・ホイットマン(司会)



「太郎は明日
大阪に行く予定です」が
言える言語と言えない言語
——人魚構文の世界

日本語新発見

—世界から見た日本語—

目次

◆あいさつ	1
影山 太郎	
◆基調講演	2
角田 太作	
世界の言語から見た日本語・ 日本語から見た世界の言語	
◆講演	
片桐 真澄	14
近くて遠い、遠く近い、フィリピンのことば タガログ語と日本語	
金 廷珉	21
日本語と韓国語、どこが似ている、どこが違う	
アンナ・ブガエワ	29
アイス語は日本語に似たようなものか?	
河内 一博	37
日本語に特有と言われる現象はアフリカにもある: シダーマ語(エチオピア)の場合	
◆パネルディスカッション	46
司会●ジョン・ホイットマン	
角田 太作/片桐 真澄/金 廷珉/アンナ・ブガエワ/河内 一博	

※発表者の肩書きは当時のものです。

あいさつ

影山 太郎

(国立国語研究所長)

皆さま、よくいらっしゃいました。2009年10月に国立国語研究所は大学共同利用機関という現在の新しい組織になり、2年半がたちました。新しい国立国語研究所は、国内外の研究者と大規模な共同研究を行い、その成果を、専門家だけではなく、一般の皆さまにも易しい言葉でお伝えするということをミッションとしています。そのため、本日のような公開講演会(フォーラム)を、これまでに4回開催してきました。昨年9月には日本語の文字、特に漢字について、この同じ会場で開催し、非常に好評でした。今日は第5回目になります。

今日のテーマはプログラムにありますように「日本語新発見—世界から見た日本語—」ということで、外国人の講師も交え、世界中のさまざまな言語の調査をされている専門家をお迎えして、日本語の特徴について、そして外国語との比較について話を聞くことにします。

表題に「新発見」という言葉が含まれています。日本語は日常使う言語だから、今さら発見なんてないのではないかと、しかも「新」と付いているので、どういふことだろうかと興味を持たれて、今日お見えになった方も多いのではないでしょ

うか。国語辞典で「発見」を引いてみますと、「今まで知られていなかったことを初めて見出すこと」とだけ書いてあります。なるほど、新しい彗星が発見されたというように、世の中の誰も知らなかったことを初めて見つけるのはまさしく発見ですが、しかし、既に人々が知っていることでも、発見と呼ぶことがあります。例えばコロンブスがアメリカ大陸を発見したというような場合です。ネイティブアメリカンの人たちにとっては、自分たちが住んでいる場所ですから、発見ではないはずですが、ヨーロッパ人の観点からすると新発見と呼べるわけです。

このように、発見という言葉を使うときは、誰の目から見て新しいのか、つまり、その発見がどういう観点から見て意義を持つのかを合わせて考えることが非常に重要です。今日のテーマである「日本語新発見」も、実は出てくる例文は誰でも普段使っている、ごくありふれたものですが、これが実は言語学の中のある観点から見て非常に意義がある発見である、ということなのです。

冒頭で申し上げたように、共同研究の専門的な研究の成果を一般市民の皆さまにできるだけ分かりやすくお伝えするというのが新国語研の使命です。今日の講師のメンバーは、まさしく現在取り組んでいる最中の共同研究の成果の一部を報告するという形になっています。そのために出てくる例文は、日本語としてはありふれた表現ですが、外国語など例では、難しく分かりにくいものがあるかもしれません。それは、一つはまだ十分にこの研究が練られていないからですが、私たちとしては、現在進行中の研究でもできるだけ早くお知らせしたいという意気込みがありますので、今日このような催しを企画した次第です。

案内のチラシの右側に「人魚構文の世界」という説明があります。人魚は、もちろんご存じのように架空の生き物で、胴体から上が人間、胴体から下は魚になっています。ここで人魚構文と称し



影山 太郎

ているのは、荒っぽく言いますと、種類の違うものが二つくっついて、一つの表現になっているという意味で、英語ではマーメイド・コンストラクションと銘打っています。人魚はマーメイドですね。ところが皆さん、ご存じでしょうか。マーメイドという英語は、実は「マー」と「メイド」に切ることができます。「メイド」は未婚の女性という意味です。「マー」は昔の英語でmereといい、「湖」という英語です。「湖の乙女」というロマンチックな言葉がマーメイドです。ヨーロッパの世界では人魚には女だけでなく男もあります。マーメイドの「メイド」を「マン」に取り換えると「マーマン」となりますが、これが男の人魚です。私は実物を見たこともありませんが、英語の言葉としてはそういった仕組みになっています。この英語をご存じなかった人にとっては、今のマーメイドとマーマンの話は、小さな「発見」と言えるのではないのでしょうか。

今日は、そのように非常に小さなありふれていることだけれども、「私は知らなかった」、「なるほど、こんな意義があるのか」という数々の発見をお楽しみいただきたいと思います。では、最後までよろしくお付き合いください。

世界の言語から見た日本語・ 日本語から見た世界の言語

角田 太作 (国立国語研究所 教授・言語対照研究系長)

つのだ たさく

国立国語研究所教授、言語対照研究系長(当時)。専門は豪州原住民言語学、言語類型論、言語消滅危機と言語再活性化。著書に『世界の言語と日本語 改訂版—言語類型論から見た日本語』(くろしお出版、2009年)、『A Grammar of Warrongol』(De Gruyter Mouton、2011年)など。



今日は「世界の言語から見た日本語・日本語から見た世界の言語」という題でお話ししたいと思います。先ほど所長のあいさつの中にもありましたが、日本語とほかの言語を比較して、日本語はこんな言語なのかなということをお話しできたらいいと思います。

◆私の研究分野

私がどのようなことを研究しているかという、一つは、オーストラリア原住民の人たちの言葉で、主に東部のワログという言語と、西北部のジャルという言語とワンジラという言語を研究しています。ワログという言語は1971年から74年まで調査しましたが、最後の話者は1981年に亡くなってしまい、その言語は消滅してしまいました。しかし、現地では2000年ごろから、祖先の言語を勉強したいという動きが始まり、私も依頼を受けて、2002年から、その子孫の方たちにワログ語のレッスンをしています。西北部のジャル語という言語も、話者は多くて数十人、ワンジラという言語は話者が2~3人程度で、この言語も消滅の危機に瀕しています。

二つ目は、言語類型論です。これは世界のいろいろな言語を比較して、どういう点に共通点があるか、また、どういう点が違うのかということ进行调查するという研究です。

三つ目は、言語消滅危機と言語再活性化です。今お話したとおり、私がオーストラリアで調べた言語は消滅してしまった、あるいは消滅の危機に瀕し

ている状況です。実は世界各地の少数民族の言語はそういう状況にあります。言語消滅危機と言語再活性化という分野では、言語はどういうプロセスで消滅していくかということを研究し、あるいはいったん消滅した言語や消滅の危機に瀕している言語を再活性化する、もう一度その言語を話すようにするにはどういう方法があるのかということを行っています。

今日は主に、オーストラリア原住民語と言語類型論の観点から日本語を中心としてお話しします。言語消滅危機と再活性化の観点からも少しお話しします。

◆日本語教育とマオリ語・ハワイ語の言語再活性化運動

ニュージーランドのマオリ人が言語再活性化運動を行っています。ニュージーランドでは英語が広まり、マオリ語が消滅の危機に瀕していて、1970年代頃から、祖先の言葉、マオリ語を話そう、守ろうという言語再活性化運動が起こりました。ニュージーランドは言語再活性化運動が世界で最も進んだ国です。その方法を研究するために私は2001年にニュージーランドへ行きました。

その人たちが使っている一つの方法は、英語ではLanguage immersionと言うのですが、日本語に訳せば「言語に浸す」、あるいは「言語に漬ける」というものです。これは、学ぼうとする言語だけを話すという方法です。例えば1週間くらい合宿す

るとします。その間は、英語を話してはいけない、マオリ語だけを話さないということになります。これはつらいです。例えば皆さんが外国語、英語か何かを習っているとします。合宿に行って、「この合宿中は英語だけ話さない。日本語は話してはいけません」と言われたら、つらいですよね。そういう合宿なのです。大変つらいけれども、非常に効果が上がるそうです。

私の知人で大学の先生でもあり、かつ教会の牧師さんでもあるRangi Nicholson師という方がいらっしゃいます。マオリ人ではありませんが、英語しかしゃべれなかったのです。二十歳ぐらいのときに合宿に行ってマオリ語の勉強を始めました。非常につらかったそうですが、今では非常に上手にマオリ語をお話になります。その方から聞いた話ですが、なんとこの言語漬けの方法は、日本語教育が起源だそうです。アメリカの語学学校で、皆さんも名前を聞いたことがある語学学校です。そこで日本語を教えるときに、こういう方法を取ったそうです。日本語を習いに来ている人たちに、この時間帯だけは英語を話

してはいけない、日本語だけを話さないという訓練をして、随分その効果が上がったそうです。マオリの人たちが、自分たちの言語を再活性化するとき、どのような方法がいいかと考えて、この方法をまねたそうです。

今、ハワイでも言語再活性化運動が盛んになっています。この会場にも、ハワイに行ったことのある方が随分多くいらっしゃると思うのですが、私たち観光客が行く所ではハワイ語は話していません。消滅してしまったのですが、場所によってはハワイ語を復活しようという運動が盛んで、ある島では、ハワイ語を話しているそうです。やはりハワイの人たちも、ニュージーランドのマオリの方法をまねて、言語漬けにして、ある時間帯、授業中だけ、あるいは週末だけ、合宿中だけはハワイ語を話して、英語を話さない方法を取ったそうです。

日本語教育の方法がニュージーランドやハワイの少数民族の言語の再活性化運動に役立っているということには、本当に私も驚きました。日本語教育が思わぬところで貢献している例です。

(写真1)

1974年9月、オーストラリア、クイーンズランド州、パーム島。故アルフ・パーマー(Alf Palmer)さん(右)と角田太作(左)。

故アルフ・パーマーさんはワロゴ語の最後の話者でした。



写真1

(写真2)

2002年3月、オーストラリア、クイーンズランド州、タウンズビル市。後列:レイチェル・カミンズさん(Rachel Cummins)(右)、角田太作(中)、ジョン・カミンズさん(John Cummins)(左)。前列:ターリア・カミンズさん(Tahlia Cummins)(右)、ミーラン・カミンズさん(Mheelin Cummins)(左)。

この写真はワロゴ語のレッスンの後に撮影しました。レイチェル・カミンズさんは故アルフ・パーマーさんの孫娘であり、また、ワロゴ語復活運動の中心人物です。ジョン・カミンズさんはレイチェル・カミンズさんの夫であり、ターリア・カミンズさんとミーラン・カミンズさんは二人の娘です。



写真2

◆外国語から見た日本語

今度は、外国語から見た日本語についてお話しします。実は、外国語を見ることで、日本の理解は深まることがあります。少し例を見ていきましょう。

1. 所有物の分類(その1)

私が1970年代前半、メルボルンのモナシュ大学の修士課程の学生だった時に、ワロゴという言葉进行调查していて、所有物である体の部分などに、二つの種類があることに気が付きました。以下の2種類です。

(あ) 普通所有物：普通、大半の人が持っているもの。頭、目、腕、腹、体毛、足、など。

(い) 非普通所有物：そうではないもの。ひげ、白髪、にきび、たんこぶ、など。

2種類の所有物のうちの一つは、普通所有物、即ち、大半の人が持っているものです。例えば、手、足、頭、腹あるいは体の毛など、腕、目もそうです。非普通所有物は大半の人が持っているとは限らないもので、持っている人もいるし、持っていない人もいます。例えばひげです。私はひげが生えていますが、ひげのない方もいらっしゃいます。そして、白髪です。私は白髪がありますが、白髪でない方もいらっしゃいます。にきび、たんこぶなどもそうです。ある人もいるし、ない人もいます。というわけで、体の部分などは、大半の人が持っているものと、そうとは限らないものの2種類に分類できることに、1973年頃に気が付きました。この区別には、もともとワロゴという言葉で見えて気が付いたのですが、いろいろとほかの言語にも、これが反映しているようです。

2. ワロゴ語

ワロゴ語の話をする前に英語の話をした方が分

かりやすいと思い、まず英語の例を見えます。悪い思い出があったりして英語の授業を思い出したくないという人もいらっしゃるかもしれませんが、ちょっと思い出してください。中学校や高校の英語の授業のときに、疑似過去分詞を習いました。どういことかといいますと、ちょうど動詞の過去分詞を作るような感じで、名詞に-edをくっつけると、「～を持った、～を持っている、～がある」という形容詞を作るわけです。

(1) a bearded man 「ひげのある男、ひげの男」

(2) a pimpled boy 「にきびのある少年、にきびの少年」

例えば、beardは「ひげ」です。Beardedと言うと「ひげのある、ひげを持っている」という意味になります。A bearded manと言うと「ひげのある男、ひげの男」です。Pimpleはにきびです。Pimpledと言うと「にきびのある、にきびを持った」になります。A pimpled boyと言うと「にきびのある少年」あるいは「にきびを持った少年」「にきびの少年」になるわけです。つまり、名詞に-edをくっつけると「～を持った、～のある」という形容詞ができるわけです。

同じように、私が調べたワロゴ語にも似ている接辞があるのです。子音の後は-jj、母音の後は-yiと発音は少し変わりますが、基本的に英語の場合と同じように「～を持っている、～を持った、～がある」という意味です。面白いことに、大半の人が持っているものとそうでないものの場合で意味が違います。これは驚きました。実はこれがきっかけで、体などの所有物の二つの種類の区別に気が付いたわけです。

(あ) 非普通所有物の例

(3) jalbar-ji ひげ - 持った
「ひげをもった、ひげのある」

- (4) birngga-yi 白髪 - 持った
「白髪を持った」(老人を指す。)
- (5) goymbirra-yi 胸の傷 - 持った
「胸の傷を持った」(成人式を経た男子を指す。)
(成人式で男子の胸に傷をつける習慣があった。)
- (い) 普通所有物の例
- (6) bolo-yi 腹 - 持った
直訳：「腹を持った、腹のある」
意味：「満腹だ、下痢をしている」など
- (7) jina-yi 足 - 持った
直訳：「足を持った、足のある」
意味：「足が痛い、足が疲れた」など
- (8) jinggo-yi 体毛 - 持った
直訳：「体毛を持った、体毛のある」
意味：「毛深い」
即ち、「普通の人より、毛が濃い。」

まず、非普通所有物の例をみましょう。(3)のjalbarは「ひげ」です。Jalbar-jiと言うと「ひげのある、ひげを持った」という意味です。(4)のbirnggaは「白髪」です。Birngga-yiと言うと「白髪のある、白髪を持った」老人のことで、(5)について、残念ながら今日は写真をお見せすることができないのですが、オーストラリアでは伝統的に男子は成人式が済むと、胸に傷を入れるのです。男の場合は、それが成人式を済ませた一人前の大人である証拠なのです。その傷のことをワログ語でgoymbirraといいます。Goymbirra-yiと言うと、そういう「胸の傷を持った人」、すなわち成人式を終えた男子という意味です。そうしますと、非普通所有物の場合、即ち、大半の人が持っているとは限らないものの場合には、ただ「～を持った」という、ただそれだけの意味です。文字どおりの意味です。

今度は、普通所有物の方に行きます。大半の人

が持っているものの場合、意味が違います。先ほどお話しましたが、ひげや胸の傷など、大半の人が持っているとは限らないもの場合には文字どおりの意味です。しかし、大半の人が持っているものをあえて「～を持っている」と言うと、意味が変わってしまうのです。「普通ではない」という意味に変わります。

例えば(6)のboloは「腹、お腹」です。大半の人は持っていますね。Bolo-yiと言うと、直訳すれば「腹を持った、お腹を持った、お腹のある」という意味なのですが、これが本当に表すのは、「お腹の具合が普通ではない」という意味なのです。例えば「満腹だ」、あるいは「下痢をしている」などの意味です。意味が変わってしまうわけです。

それから、(7)のjina「足」です。大半の人は足があります。Jina-yiと言うと、直訳すれば「足を持った、足のある」という意味なのですが、本当にこの表現が意味するところは「足が普通の状態ではない」、つまり「足が痛い、足が疲れた」状態を表すわけです。

(8)のjinggoは「体に生えている毛」です。大半の人は持っています。Jinggo-yiと言うと、直訳すれば「体の毛を持った、体の毛がある」という意味なのですが、この場合は「体の毛が普通よりも濃い、普通よりも毛深い」という意味になってしまいます。

今まで見たことをまとめますと、ワログ語にはちょうど英語の-edに当たるような「～を持った」という表現を作る接尾辞があります。大半の人が持っているとは限らないもの、例えばひげ、にきび、たんこぶ、白髪などに用いるときは文字どおりの意味です。ところが、大半の人が持っているようなものについて、あえて「～がある」と言う、「普通ではない」という意味に変わってしまうわけです。

なぜかと考えてみました。例えば、会場の皆様に向かって「はい、そこの白髪の方」「はい、そこのにきびの方」と言うとき、大半の人が持っている

は限らないものの場合だったら、そう言う価値があります。ところが、大半の人が持っているものについて、「はい、その頭の方」と言っても、みんな頭はありますから、言う意味がないのです。そういうときには、言うだけの価値がある意味に変えてしまう、「普通ではない」意味に変えてしまおうということだと思います。

3.日本語

体の部分などは、大半の人が持っているかどうかで表現が違ふ、意味が変わってしまうことを話しました。私がオーストラリアのワロゴという言葉調べていたのは、今から40年前のことです。その後、全く同じことが日本語にもあることに気づきました。それが「～がある」という言い方です。まず例を見てみましょう。

(あ) 非普通所有物の例

- (9) (童謡)かあさん、白髪がありますね。タントン、タントン、タントン。。。
- (10) 太郎さんはニキビがあります。
- (11) (童謡:こぶとりじいさん)あのおじいさんはこぶがあります。

(い) 普通所有物の例

- (12) (野球の実況放送。かつての阪急ブレーブス。)福本選手は足があります。
- (13) 花子さんは頭があります。
- (14) 花子さんは目があります。
- (15) あの大工さんは腕があります。

非普通所有物の場合、即ち、大半の人が持っているとは限らないものの場合、先ほどのワロゴ語の場合と同じで、文字どおりの意味です。例えば例文(9)です。「肩たたき」という童謡で「かあさん、白髪がありますね。タントン、タントン、タントン」とい

います。「かあさん、白髪がありますね」は、ただ「白髪があります」、それだけの意味です。特に白髪が普通ではないという意味はありませんし、白髪が特に長いなどという意味はないのです。例文(10)で、「太郎さんにはきびがあります」と言った場合も、ただそれだけのことです。特にそのにきびは普通ではないなどの意味はないのです。例文(11)の「あのおじいさんはこぶがあります」は童謡の「こぶとりじいさん」について述べた文です。この場合も、ただ「こぶがあります」、それだけの普通の意味でしょう。特別な意味が変わっていません。

ところが、大半の人が持っているものの場合に「～があります」と言うと、意味が変わってしまいます。例えば例文(12)をご覧ください。「福本選手は足があります」という文です。この例文を見て、ぱっと分かる方はいらっしゃいますか。この中に、昔、プロ野球のチームで福本選手が所属していたチームを御存知の方はいらっしゃいますか。そうです。かつての阪急ブレーブスです。ちなみにわが研究所の所長と私は阪神ファンなのですが、実は福本選手は阪急ブレーブスで世界の盗塁王といわれて、盗塁数の世界記録を作った選手です。1985年頃、あるとき、たまたま阪神の試合がなかったからかもしれませんが、阪急ブレーブスの試合の実況放送を聞いていたところ、アナウンサーが「ファーストランナーは福本選手、福本選手は足がありますね」と言ったのです。私はそのときに、あっと思いました。だって福本選手は幽霊ではないわけですから、足があるに決まっているのではないかと最初は思ったわけです。なぜ「福本選手は足がありますね」と言うのだらうと思ったのです。要するに、福本選手はプロ野球選手中でも走るのが速いという意味なのです。なるほどと思いました。つまり、普通、プロ野球選手はみんな足があるわけです。それを、しいて「あります」といった場合には「普通よりも」という意味に変わってしまっているのです。

例えば、(13)の文「さすが、花子さん、頭があまりすね」と言った場合は、「花さんは普通より頭が良い」という意味です。そして、(14)の文「花さんは目があります」と言った場合も、「花さんは何かを見て判断する能力が普通よりも優れている」という意味です。(15)の文「あの大工さんは腕があります」と言った場合は、「あの大工さんは普通の大工さんよりも技が優れている」という意味です。

そうしますと、オーストラリアのワロゴ語で、大半の人が持っているとは限らないものを「持っています」と言った場合にはただそれだけの意味だけれども、大半の人が持っているものをあえて「持っています」と言った場合には、「普通ではない」という意味になってしまうとお話しましたが、日本語でも同じことがあります。この「あります」がそうです。にきび、たんこぶ、白髪など、大半の人が持っているとは限らないもの場合には、ただそれだけの意味です。ところが、足、頭、目、腕など、大半の人が持っているものについて、しいて「持っています」と言った場合、日本語の場合には「普通以上の能力、並以上の能力があります」という意味に変わってしまうわけです。

4. 英語

次は英語に行きます。英語は名詞に-edをくっつけて「～を持っている」という言い方があるという話をしましたが、実はこれを使える場合と使えない場合があって、よく見ると先ほどと同じで、大半の人が持っているかどうかの区別が反映しているようなのです。以下の例を見ましょう。

接尾辞 -ed : 非普通所有物

(16) a bearded man

「ひげのある男、ひげの男」

(17) a pimpled boy

「にきびのある少年、にきびの少年」

(18) *an eyed girl

直訳「目のある少女、目の少女」

接尾辞 -y : 普通所有物

(19) brainy 「(普通より)頭の良い」

(20) hairy 「(普通より)毛深い」

(21) leggy 「(普通よりも)脚のきれいな」

どうも英語の-edは、大まかに言って大半の人が持っているとは限らないものに使うようなのです。例えば(16)のbeard、先ほど言った「ひげ」です。ひげのある人もいるし、ない人もいます。この場合のa bearded manはただそれだけの意味です。「ひげの男」と言えるのです。あるいは、(17)については、にきびのある人もいるし、ない人もいますが、a pimpled boyと言えば「にきびの少年」、文字どおりの意味と言えます。大半の人が持っているとは限らないもの場合には、この-edが言えるのです。

ところが、驚きました。大半の人が持っているもの場合には、-edは言えないのです。例えば、(18)のan eyed girlは直訳すると「目のある少女、目の少女」となりますが、実は、an eyed girlは言えないのです。(言語学では、「こういう言い方は言えません」という印として*印を使います。)英語で名詞に-edをくっつけて、疑似過去分詞で「～を持っている、～がある」という言い方は、大まかに言うと、大半の人が持っているとは限らないもの場合しか言えないのです。

先ほどお話しましたように、オーストラリアのワロゴ語や日本語では、大半の人が持っているものを、しいて「持っている」と言う「普通以上、普通ではない」という意味に変わってしまいます。では、そういう表現は英語には無いのかと思ってよく見たら、ありました。

例えば、例文(19)のbrain「脳みそ」です。Brainyは綴りではyを書きますが、発音はiでしょう。大半の人はみんな脳みそがあるわけで、brainyと

言う「脳みそを持った」という意味なのですが、実は、この場合は「普通よりも頭がいい」という意味なのです。(20)のhair「体の毛」も同様です。大半の人にはあるわけですが、hairyと言うと「普通よりも毛深い」という意味です。更に、(21)のlegです。大半の人はみんな足があるわけですが、leggyという表現を用いて、しいて「足がある」と言う、「普通よりも足がきれいだ」という意味になってしまいます。

英語のところをまとめると、こういうことが言えます。大半の人が持っているとは限らないものの場合には-edなのです。例えば、a bearded man「ひげの男」、a pimpled boy「にきびの少年」です。ところが、大半の人が持っているような場合だと-edは使わず、-yを使います。Brainy「普通より頭がいい」、hairy「普通よりも毛深い」、leggy「普通よりも足がきれいだ」などです。しかもこの場合は「普通よりも」という意味になってしまっているのです。

体の部分などで、大半の人が持っているか、そうとは限らないという使い分けは、今から約40年前の1973年ごろに、もともと私がワロゴという言語を研究していた時に気が付きました。後に、この使い分けは日本語もあって、英語にもあるということに気が付きました。日本語と英語とオーストラリアのワロゴという言語は、随分違うように見えますが、実はこんな共通の原理があることが分かったわけです。

私は言語類型論という研究をしています。これは世界のいろいろな言語を見て、どういう共通点があるか、どういう点に違いがあるかを見る研究分野で

す。ここで話した研究で、日本語、英語、ワロゴ語を通して、体の部分などについて、大半の人が持っているかどうかの区別が非常に表現に影響しているということがわかりました。多分皆さんが知っているらっしゃるほかの言語でも、影響しているのだらうと思うのです。

◆日本語から見た外国語

ほかの言語を見ること、例えばワロゴ語を見ることによって、日本語の所有の表現「～がある」という表現の理解が深まることとお話ししましたが、今度は逆に、日本語からほかの言語を見ることによって、ほかの言語の理解が深まるという例をお話したいと思います。

1. 所有物の分類(その2)

また所有物ですが、私は敬語の表現の例文を集めていました。もっと正確に申しますと、昭和天皇のお体の具合が悪くなったのが1988年10月ぐらいでした。昭和天皇のお体は具合が悪いという報道がたくさんあり、「この敬語は少し変わっているな」と感じました。私は、常に手元に紙と鉛筆を持って、テレビでニュースなどを見ていて、面白い例文があるとメモして、そういう例文を集めておきました。それをもとに所有物にランキングがあることに気が付きました。以下のランキングです。

「身体部分」は体、手、目、足、頭などです。「属性」は身長や体重、体温、体の調子などです。「衣

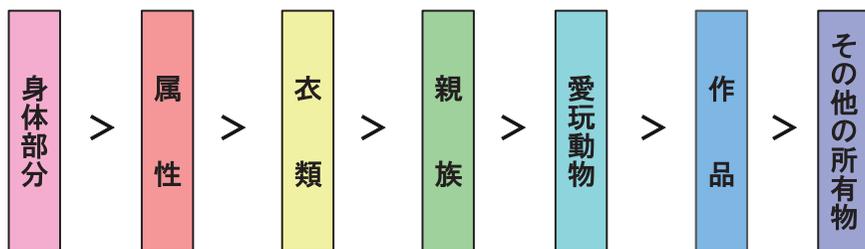


図1 所有傾斜

類」は身につけている上着、ズボン、靴、眼鏡などです。お父さん、お母さん、おじいさん、おばあさんなどは「親族」です。「愛玩動物」は家で飼っている猫や犬などです。「作品」は、例えば職人さんが作った工芸品や作家が書いた作品、小学校のお子さんが図工の時間に作った作品、私たちの場合は研究者が書いた本や論文です。そして、「その他の所有物」が続きます。昭和天皇に関する報道を見て、ある種の敬語は、ランキングの高い方が言いやすく、低い方が言いにくいことに気が付きました。

①日本語の敬語

例えば、この敬語はもともと昭和天皇の御体調に関する報道の例文から取ったのですが、仮の会社の社長に変えておきました。

身体部分(または身体)の例

(22) 社長のお体は元気でいらっしゃる。

属性の例

(23) (社長が病気になった。しかし) 社長のご

容態は落ち着いていらっしゃる。

(24) 社長のご体温はもとの状態に戻られました。

(22)の「社長のお体は元気でいらっしゃる」という文は敬語です。これは、一見「お体」に敬意を表したように見えますが、本当は「社長」への敬意です。こういう言い方が身体部分なら言えるのです。それから、属性でも言えます。例えば(23)「社長のご容態は落ち着いていらっしゃる」と(24)「社長のご体温はもとの状態に戻られました」です。こういう、一見所有物に敬意を表しているように見えるけれども、本当はその所有者の方に敬意を表している敬語は身体部の属性ぐらいでは言えるのですが、ずっとランキングが下の方に来て、その他の所有物になると言いにくいのです。例えば別荘、お靴、コンピューターなどは、図1の分類でいくと一番下の「その他の所有物」です。

その他の所有物の例

(25) ?社長の別荘は立派でいらっしゃいます。

(26) ?社長のお靴は高級品でおられます。

(27) ?社長のごコンピューターはマックでいらっしゃいます。

(25)の「社長の別荘は立派でいらっしゃいます」とはあまり言わないですね。言いにくいでしょう。(言語学では、「こういう表現は言いにくい」という印として?印を使います。)(26)の「社長のお靴は高級品でおられます」も少し言いにくいですね。(27)の「社長のごコンピューターはマックでいらっしゃいます」も言いにくいですね。

こういう敬語は、一見所有物に敬意を表しているように見えるけれども、本当はその持ち主の方に敬意を表している敬語なのです。これは身体部分、属性の方は言えます。「お体はお元気でいらっしゃる」



などは身体部分の例です。「ご体温はもとの状態に戻られました」「ご容体はこうです」などは属性の例です。図1のランキングの左の方は言いやすいのですが、右の方に来て、特に「その他の所有物」になってしまうと、非常に言いにくいのです。そういうわけで、所有物のランキングがあることに気が付きました。

そうしたら、どうも所有物のランキングはほかの言語にも反映しているようなのです。

②ワロゴ語

例えばオーストラリアのワロゴ語を見てみましょう。先ほど見た名詞にくっつけて「～を持った」という表現を表すという接尾辞です。子音の後だったらji、母音の後ならyiという発音です。この接尾辞は、「身体部分」「属性」「衣類」「親族」までは言えるのです。その下は、言えないこともないけれども、使いにくい傾向があるようです。

身体部分の例

(28) jalbar-ji ひげ - 持った
「ひげをもった、ひげのある」

(29) bolo-yi 腹 - 持った
直訳：「腹を持った」
意味：「満腹だ、下痢をしている」など

属性の例

(30) morran-ji 病気 - 持った
「病気を持った、病気の」

衣類の例

(31) gambi-yi 衣類 - 持った
「衣類を持った、衣類を着た」

親族の例

(32) jolbon-ji 配偶者 - 持った
「配偶者を持った、結婚している」

はじめに身体部分を見ます。まず、(28)のjalbar

「ひげ」です。Jalbar-ji「ひげの、ひげがある、ひげを持った」と言えます。それから、(29)のbolo「腹、お腹」も言えます。Bolo-yiと言うと、直訳すると「腹を持った」ですが、表すところは「満腹だ、下痢だ」。大半の人が持っているとは限らないものの場合、ひげなどはそのままの意味ですが、みんなが持っているもの場合は「普通ではない」意味に変わるので、お腹の場合は「満腹である」「下痢をしている」になります。

属性に行きましょう。(30)のmorran「病気」です。Morran-jiと言うと「病気を持った」「病気の」という意味になります。

今度は、衣類に行きます。(31)のgambi「衣類」です。Gambi-yiと言うと、直訳すれば「衣類を持った」で、「衣類を身に付けている」という意味です。

親族でも言えるのです。(32)のjolbon「配偶者」です。Jolbon-jiと言うと、直訳すれば「配偶者を持った」、すなわち「結婚している」という意味です。

この言語にちょうど英語の-edの疑似過去分詞のような接辞があり、「身体部分」「属性」「衣類」「親族」まで言えます。それより下は言えない、あるいは非常に言いにくいです。

③英語

実は英語でも同じようなことがあります。-edを調べると、「身体部分」「属性」「衣類」までは言えて、「親族」は言えないのです。ワロゴでは「親族」まで言えましたが、英語だと駄目です。

身体部分の例

(33) a bearded man
「ひげのある男、ひげの男」

(34) a pimpled boy
「にきびのある少年、にきびの少年」

属性の例

(35) a talented girl

「才能のある少女」

(36) a good-natured man

「良い性格の男」

衣類の例

(37) a white-hatted cabman

「白い帽子のタクシー運転手」

(38) a uniformed commissioner

「制服の使い走り人」

親族：使えない。

(39) *a wifed man

意図した意味：「妻のいる男」

身体部分では問題なく言えます。例は(33)の a bearded man「ひげの男」と(34)の a pimpled boy「にきびのある少年」です。

属性でも言えます。例は(35)の a talented girl「才能のある女の子」と(36)の a good-natured man「良い性格の男」です。

衣類でも言えます。例は(37)の a white-hatted cabman「白い帽子のタクシー運転手」と(38)です。(38)の a uniformed commissionerの和訳「制服の使い走り人」は、日本語の訳としてはあまり上手ではないと思うのですが、辞書を見たら commissioner「使い屋、案内人、守衛、送迎係、門衛」と書いてあったので、そ

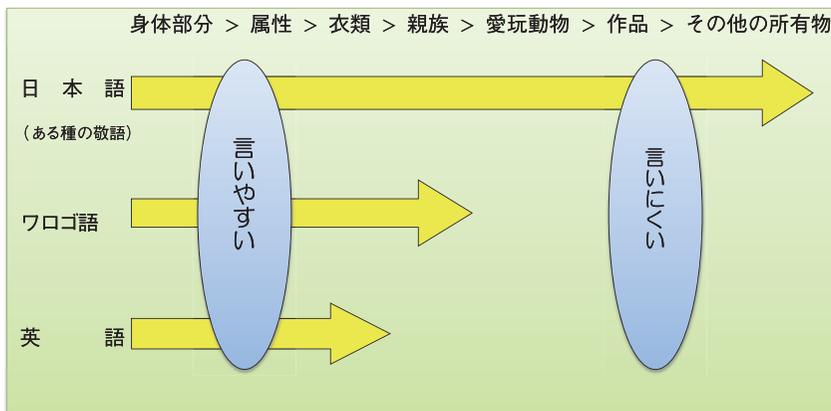
ういう人で制服を着ている人です。

このように、英語の-edは「身体部分」「属性」「衣類」まで言えるのです。ところが、「親族」では言えないそうです。(39)の、*「a wifed man」で意図した意味は「妻のいる男」ですが、これは言えないそうです。

こうして見ると、接辞をくっつけて「～を持った」という言い方は、ワロゴ語では「身体部分」「属性」「衣類」「親族」まで言えるが、英語では「身体部分」「属性」「衣類」までしか言えないという違いらしいです。

④所有傾斜のまとめ

まとめてみますと、私は、図1の「身体部分>属性>衣類>親族>愛玩動物>作品>その他の所有物」という所有物のランキングがあるだろうと考えたわけです。先ほどの尊敬語で、「天皇陛下のお体は元気でいらっしゃいます」と言うように、所有物に敬意を表しているように見えるけれども、本当は所有者に敬意を表している敬語は、日本語では左の方が言いやすく、右の方に行くほどだんだん言いにくくなるのです。所有を表す言い方は、ワロゴ語では「身体部分」「属性」「衣類」「親族」までで、英語の場合は「身体部分」「属性」「衣類」まで言えません。昭和天皇の御体調に関する新聞記事などを



所有傾斜のまとめ

基にして日本語に関して考えて、分かったことは、このランキングは、ほかの言語にも反映しているようなということです。少なくともワロゴ語と英語に反映しています。つまり、日本語からほかの言語を見ることによって、ほかの言語の理解が深まったという一つの例です。

2. 人魚構文

先ほど所長からもご紹介があった「人魚構文」というものは、私が名前を付けたのです。

- (40) 太郎は明日大阪に行く予定です。
- (41) 首相は米の輸入を認める見込みだ。
- (42) 日本人は正月を祝う習慣だ。

例文(40)は、今日のフォーラムのポスターにあるのですが、「太郎は明日大阪に行く予定です」という言い方は、皆さん、普通、聞きますね。全然変わった言い方ではないでしょう。(41)「首相は米の輸入を認める見込みだ」も日本語として自然でしょう。これは少し古い例文ですが、今の首相ではなくて、ずっと前で、誰のときか覚えていませんが。(42)「日本人は正月を祝う習慣だ」も日本語として自然でしょう。

これらの文について、私はふと、この文は何かおかしいのではないかと思ったのです。私がおかしいと思ったきっかけは、こういうことです。私はもちろん日本語も研究していますが、もともとはオーストラリアの言語を研究していて、出発点が違うのです。私がもともと日本語専門で研究していたら、気が付かなかったかも知れません。ほかの言語を回り道してきたために、「この文はおかしいのではないか」と思ったのです。

なぜおかしいかという、理由は二つあります。まず、意味の点です。(40)「太郎は明日大阪に行く予定です」と言うけれども、太郎は予定ではありま

せん。人間ですから、考えてみればおかしいです。(41)「首相は米の輸入を認める見込みだ」もおかしいです。首相も人間で、見込みではないです。更に「日本人は正月を祝う習慣だ」もおかしいです。日本人は人間で、習慣ではないです。よく考えてみたら、この文は意味の点でおかしいわけで、それが一つ目の理由です。

それから、文の構造の点でも、私がおかしいなと思ったのです。もしかしたら皆さんは中学校や高校でこういう文法の言葉を習ったかもしれません。動詞述語文、名詞述語文です。動詞述語文は、例えば「花子さんは昨日日本を買いました」「花子さんは昨日日本を読みました」、あるいは「花子さんは昨日仙台に行きました」のような文です。「行きました」「買いました」「読みました」という動詞が述語で、これらの文を動詞述語文と言うわけです。一方、「花子は学生だ」、あるいは「花子は学生です」「所長は阪神ファンだ」「所長は阪神ファンです」のような文があります。これは名詞述語文と言うわけです。

そうすると、先ほどお話しした文は、動詞述語文と名詞述語文を併せたような文なのです。前半の「太郎は明日大阪に行く」「首相は米の輸入を認める」「日本人は正月を祝う」は動詞述語文で、後半の「予定だ」「見込みだ」「習慣だ」と名詞述語文みたいです。これらの文は奇妙な文です。上半身が動詞述語文、下半身が名詞述語文で、いわば二つの性質の文が合わさったような文なのです。不思議だなと思いました。

まとめてみますと、「太郎は明日大阪に行く予定だ(予定です)」「首相は米の輸入を認める見込みだ(見込みです)」「日本人は正月を祝う習慣だ(習慣です)」という文は、動詞述語文と名詞述語文が合わさったような文で、私は、人魚に似ているなと思いました。人魚は上半身が人間、下半身は魚ですから、「人魚構文」と名付けようと思ったわけです。

私はいろいろ先行研究を見て、日本語に関する

文法研究をあれこれ調べたのですが、こういう例文を扱った研究はありますが、「これは意味からみてもおかしいのではないか。変わった文ではないか」と指摘した人はいなかったようです。普段、何気なく使っているから意識しなかったのでしょう。

私は国立国語研究所で共同研究をしていて、多数の言語学者に協力いただいています。扱っている地域は北米、中米、大洋州、アジア、アフリカ、ヨーロッパです。大洋州はハワイからニューカレドニアとオーストラリアまでを含みます。アジアは、もちろん日本を含めて、シベリアから、中国、東南アジア、フィリピン、インドネシア、更に、中国からずっと西の方に行き、満州語の仲間のシベ語やコーカサスの言語など、更に、インドの言語までも含みます。その上アフリカの言語とヨーロッパの言語もあります。このように、いろいろな言語の専門家の方々に入っただいて共同研究をしています。私が「日本語でこんな変わった文がありますね」と調査を始めたら、なんとほかの言語でもだんだん見つけてきました。

人魚構文は今のところ、アジアとアフリカの20近くの言語に見ついています。アジアでは、まず日本語の仲間の琉球語にあります。シベリアの方に行きますと、サハ語、コリヤーク語、ユカギール語、更に中国語、モンゴル語、中国南部の少数民族言語、チベットやインドの言語などにあったのですが、なんと日本のすぐ近くのアヌ語にもありました。今日はブガエワ先生にお話をさせていただきます。お隣の韓国語・朝鮮語にもありました。金先生にお話しさせていただきます。初めは、この人魚構文はアジアにしかない特殊な言語、構文なのかと思っていましたら、はるか彼方アフリカでも見つけました。エチオピアです。今日は河内先生に、エチオピアのシダーマ言語で見つかったこととお話しさせていただきます。

実は今までお話しした言語は全部、日本語も含めて、アイヌ語、韓国語・朝鮮語やモンゴル語など、人魚構文が見つかった言語は、みんな述語が最

後に来る言語なのです。「花子が(主語)、本を買った(述語)」という順番です。

(45) 花子が 本を 買った。
述部

私は共同研究で、こういう構文は述語が最後に来る言語にしか見つからないのかと思ったら、なんと、述語が先頭に来る言語でも見つけました。フィリピンのタガログ語です。タガログ語では、(45)の文をいわば(46)のように言います。

(46) 買った 花子が 本を。
述部

今日はタガログ語については片桐先生にお話しさせていただきます。

◆まとめ

今日どのようなこととお話ししたかと申しますと、まず、日本語教育の方法、具体的にはアメリカの語学学校で用いた方法が、なんとハワイやニュージーランドの少数民族の言語の再活性化運動に役立っていることとお話ししました。それから、所有表現を例に取って、外国語から見ることで日本語の理解が深まることとお話ししました。最後に、日本語から見ると外国語の理解が深まる例として、はじめに所有表現の例を挙げて、次に人魚構文のお話をしました。このあとほかの講師の先生方が、それぞれの言語について詳しくお話をしてくださると思います。どうぞご清聴ありがとうございました。

近くて遠い、遠くて近い、フィリピンのことば タガログ語と日本語

片桐 真澄 (岡山大学 准教授)

かたぎりますみ

岡山大学大学院社会文化科学研究科准教授。専門はフィリピン諸語を中心とした、台湾原住民諸語、インドネシア諸語などオーストロネシア諸言語の統語・形態、語用。著書に「主題の対照」(共著、くろしお出版、2004年)、「The Many Faces of Austronesian Voice Systems」(共著、Pacific Linguistics、2005年)など。



フィリピンという国は地理的には近いのですが、皆さんはあまり馴染みがないかもしれません。

◆フィリピンの言語

フィリピンは日本の南西にあって、面積は日本の約8割、人口は9400万人ぐらいで、日本よりは小さい国ですが、言語事情は非常に複雑です。それには地理的背景や歴史的背景、民族的背景などがあります。地理的には、フィリピンは約7109の島々から成る世界第2位の群島国家です。ちなみに第1位はインドネシアです。また、歴史的には長い間、スペインやアメリカ、日本に統治されて、統一国家が1946年までなかったということです。民族的にはマレー系が大多数ですが、約100を超える民族グループがあるとされ、非常に民族的にも多様であることから、フィリピン諸語は約120あるといわれています。日本よりも狭い国土の中に、互いに意思疎通のできない言語がそのぐらいあるといわれています。また、ス

페인語やサンスクリット語、もちろん英語などからの借用語も多い言語です。今日の発表では、フィリピン諸語の一つであるタガログ語について扱わせていただきます。

フィリピンの国語であるフィリピン語は、首都マニラを中心とした地域の土着言語であるタガログ語を母体として、ほかのフィリピン諸語の語彙や外来語なども含め

た言語です。実態としては、タガログ語とフィリピン語は相違ないと言って差し支えないと思います。マニラを含む、ルソン島中南部辺りで話される言語です。けれども、第2言語話者も含めると、タガログ語の話者はフィリピン全土にいます。タガログ語をはじめ、フィリピン諸語はオーストロネシア語族に属しています。

◆近くて遠いタガログ語と日本語

このように、日本とフィリピンは地理的には非常に近いのですが、日本語とタガログ語をはじめとするフィリピン諸語は、一見全く異なるタイプの言語であるように見えます。まず語順から考えてみると、日本語は先ほどのお話にもあったように、述部が末尾に来るSOV(主語-目的語-動詞)という語順ですが、タガログ語の場合は述部が先頭に来る言語です。VSO(動詞-主語-目的語)、あるいはVOSという語順になります。

語順 述部先頭言語(VOSまたはVSO) 日本語は述部末尾言語(SOV)

	述部			主部	
(1)	Estudyante	sa	UP	ang	babae.
	学生	斜格	UP	主題	女性
	「その女性は、UP(=フィリピン大学)の学生だ。」				
(2)	Maganda			ang	babae.
	美しい			主題	女性
	「その女性は、美しい。」				
(3)	Nasa kusina ngayon			si	Maria.
	に(いる) 台所 今			主題	マリア
	「マリアは、今、台所にいる。」				

主部: ang(人名の場合si)が付く句。
タガログ語にはコピュラがない。

例文(1)–(3)

述部が名詞や形容詞の場合の例を(1)～(3)に示しましたが、タガログ語ではすべて述部が前に来ています。

主部が後ろに来ているわけですが、主部がangというマーカー、あるいは人名の場合はsiというマーカーなのですが、これによって表されています。これらの例から分かるように、日本語の「だ」や「です」に当たるようなものをコピュラと呼びますが、タガログ語にはそういうものはありません。例えば(1)ですと「その女性は、UP(フィリピン大学)の学生」のようなもので文になるということです。

さらにタガログ語には世界の言語の中でも非常にユニークな、フィリピン・タイプと呼ばれる文の交替のシステムがあって、それがフォーカス体系と呼ばれています。(4)～(6)の文は動詞述語文なのですが、この文の中の一つの要素、名詞的な要素が主要要素として選ばれます。それがangというマーカーによって、マークされるということです。

例えば(4)「男は妻に指輪を買った」という文になりますと、男は行為者ですが、行為者である男が主要要素として選ばれ、angというマーカーで表されています。さらにそれだけではなく、動詞biliは「買う」という意味なのですが、これに行為者が主要要素ですよということを示す、行為者焦点接辞(フォーカス)が付きます。この形は完了の形です。タガログ語には時制がなくて、アスペクトがあるのです。アス

ペクトとは完了や未完了などを表すものです。このように行為者が選ばれた場合は、行為者焦点文と呼んでいます。

(5)や(6)の場合は「彼の妻に」、益を受ける者という受益者が主要要素として選ばれて、動詞には受益者焦点接辞が付きます。(6)の場合には対象が主要要素として選ばれた対象焦点文という形になっています。(4)～(6)のような交替は、行為者と受益者と対象の三つの名詞要素だけでしたけれども、例えば「先生は罪滅ぼしに高島屋で奥さんのために退職金で指輪を買った」という文があるとしますと、原則としてどのような意味役割の名詞でも主要要素になることができます。例えば「罪滅ぼし」を主要要素にしたり、「退職金」という道具を主要要素にしたり、そういうことができるわけです。

こういうものをフォーカス体系と言いますが、これは日本語や英語など、ほかの言語に見られる受動態などの態の交替とは、基本的に異なるものです。このフォーカス体系はフィリピン諸語の一番の特徴と言ってもいいかと思います。このように、語順の点から見ても、ユニークなフォーカス体系を持っていることから見ても、日本語とフィリピン諸語、タガログ語は、全く異なる言語であるように見えます。

◆遠くて近いタガログ語と日本語

このように全く異なる遠い言語に見えるタガログ語

にも、日本語と類似する点が多々あります。一つには、日本語と同じように主題を持っている、主題優勢言語である点が共通しています。英語などのヨーロッパ諸語の多くは、主語という文法的な要素、文法関係を中心とする主語優勢言語なのですが、日本語では主語とは独立の概念として主題

bili「買う」						
(4)	B-um-ili	ang	lalaki	nang	singsing	para sa asawa niya.
	行為者焦点(完了)-買う主題	男	属格	指輪	ために	妻 彼の
	男は妻に指輪を買った。					
(5)	I-b-in-ili	nang	lalaki	nang	singsing	ang asawa niya.
	受益者焦点(完了)-買う属格	男	属格	指輪	主題	妻 彼の
	妻は男に指輪を買ってもらった(#買われた)。					
(6)	B-in-ili	nang	lalaki	ang	singsing	para sa asawa niya.
	対象焦点(完了)-買う	男	属格	指輪	ために	妻 彼の
	??指輪は男に(よって)妻のために買われた。					
<ul style="list-style-type: none"> 原則として、どんな意味役割の名詞句でも主要要素になることができる。他の言語の受動態など態の交替とは本質的に異なる。 						
<p>先生は、罪滅ぼしに高島屋で奥さんのために退職金で指輪を買った。</p> <p>意味役割: 行為者 原因・理由 場所 受益者 道具 対象</p>						

例文(4)～(6)

(7)

おじいちゃん: 子どもたちがいないね。

おばあちゃん: a. 子どもたちは/*が今向こうでカレーを作っているよ。

b. *カレーは子どもたちが今向こうで作っているよ。

野田尚史(1996)『「は」と「が」』東京:くろしお出版

(8)

Lolo: Wala dito **ang mga bata**, di ba?

Grandpa none here TOP PL child not Q

おじいちゃん: 子どもたちがいないね。

Lola: a. Nagluluto **ang mga bata** nang adobo doon ngayon.

Grandma AF+cook TOP PL child GEN adobo over there now

おばあちゃん: 子どもたちは今向こうでアドボを作っているよ。

b. *Niluluto nang mga bata **ang adobo** doon ngayon.

PF+cook GEN PL child TOP adobo over there now

*アドボは子どもたちが今向こうで作っているよ。

例文(7)、(8)

を持っていて、それを日本語の場合は「は」という助詞でマークします。タガログ語では先ほど見たようにang、人名の場合にはsiというマーカーによって表します。

言語類型論的に主題を表す手段としては、形態的な手段のほかに、主題を文頭へ置く文法的手段や、主題の後にポーズを置くなどの音声的手段などがありますが、タガログ語の場合には、このすべての手段を持っています。いずれの場合も、主題となる要素にすべてangが付いています。

タガログ語のangは、日本語の「は」に比べて、かなり文法的な要素です。多くの統語現象にかかわることから、主題ではなくて、主語だと言う人もいるのですけれども、主語ではないと考えます。また、談話においてangの付く要素の表れ方を見ると、日本語の「は」の表れ方とかなり似ていることが分かります。

(7)の「子どもたちがいないね」という発話に対して、「子どもたちは今向こうでカレーを作っているよ」という文は自然なのですが、「子たちが」としたり、あるいは「カレーは」としたりすると、かなり不自然になります。このように日本語の談話では、「は」は前の

文脈に出てきたものを主題として、話題を継続することに用いられるのですが、タガログ語でも同じようなことが観察されます。「子どもたちがいないね」に対する最も自然な応答として、タガログ語話者は(8)aのような、先ほど見た行為者を主要要素とした行為者焦点文を使います。bのような対象を主題とした文は、文法的な文なのです。文のレベルでは、行為者焦点文よりも、むしろ選ばれやすい文なのですけれども、この談話の中では、問われている子どもたちの居場所よりも、

関心の中心は対象であるアドボになっています。アドボは、肉と野菜を炒めて煮込んだようなフィリピン料理の一つです。フィリピンではあまり辛いものは食べないので、カレーではなく、アドボにしましたが、これは関心の中心がアドボにあるように感じられる点で、かなり不自然だということです。このようにタガログ語のangも、かなり文法的な要素とはいえ、依然として主題的な要素を持っています。

◆人魚構文

これから人魚構文の話になります。先ほどの角田先生のご講演の中にもありましたように、日本語などの述部末尾言語(SOV)に特徴的と考えられてきた人魚構文が、実はタガログ語にも存在することです。人魚構文は「太郎は明日大阪へ行く予定です」のように、文の半分が動詞述語文的で、文の半分が名詞述語文的な文のことなのですけれども、上半身が人で、下半身が魚の人魚にちなんで人魚構文と名付けられたわけです。これまで多くのSOVの言語には見付かっているのです。それから、述語が中間に来る英語には、先ほどのホイットマン先生のお話にもありましたように、基本的にはあ

【日本語】

[太郎は明日大阪へ行く] 予定 です。

[節]	名詞 コピュラ
第一部分	第二部分

【タガログ語】

- ・タガログ語は述語先頭なので、日本語と鏡像関係をなす。
- ・タガログ語にはコピュラがない。
- ・要素をつなぐときには、リンカー(連結辞)が必要。(中国語の「的」のようなもの)

名詞	リンカー	[節]
第一部分		第二部分

- ①定形タイプ 名詞 リンカー [定形節]
 ②不定形タイプ 名詞 リンカー [不定形節]

人魚構文のプロトタイプ

りません。けれども、中国語などには少し周辺のながら、あります。しかし一方で、述部が先頭に来るような言語では、これまで研究はおろか、その存在さえ明らかにはなっていませんでした。

人魚構文のプロトタイプ、典型的な形から考えてみますと、日本語の人魚構文は、第一部分が節、文の形をしていて、第二部分が名詞+「だ」のようなコピュラの形になっています。全体として節、名詞、コピュラが魚人構文のプロトタイプと呼ばれています。タガログ語は述部が先頭に来る言語なので、日本語と逆になると考えられます。すなわち、上半身が魚で、下半身が人間の「人魚構文」と言った方がいいのかもしれない形になることが予測されます。

さらにタガログ語には、コピュラがありません。要素と要素、何かをつなぐときには、リンカーという連結辞が必要になってくるので、タガログ語の人魚構文は名詞-リンカー-節という形になると予測されます。実際にこのような形で起こって、さらに節の形によって、定形タイプと不定形タイプという二つのタイプがあります。この定形や不定形については、後で少しご説明します。

定形タイプでは、名詞は「顔」という意味の単語、mukhaを使います。これはサンスクリット語からの借用語です。サンスクリット語では

「顔」や「口」、「表情」などの意味があります。ヒンディー語でもmukhaは「顔」の意味で使います。

それから、リンカー、連結辞はmukhaという単語が母音で終わるので、-ngという接辞を取ります。それから、定形節が後に来るわけです。定形節は、普通は時制を持っている文のことを言うのですが、タガログ語には時制はありませんので、その代わり、アスペクト、先ほどの完了や未完了などを使います。これによって活用をします。それで節自体が独立した文として成り立つものです。従って、定形タイプの人魚構文はmukha-ng+定形節という形になって、意味としては話者が実際に見ていることに基づいて判断したり、あるいは周囲の状況から推論して、「～のようだ」という意味を表す構文です。直訳すると「～の顔だ」ということになります。

1. 定形タイプ

(9)～(11)の文は、それぞれ節が名詞述語、形容詞述語、動詞述語の場合を示しています。mukha-ngの後に続く節、例えば(9)であれば

(9) 名詞述語	Mukha-ng	[binata=pa=siya].		
	face-LK	bachelor=yet=3SG:TOP		
	直訳:	彼はまだ独身の顔だ。		
	訳:	彼はまだ独身のようだ。		
(10) 形容詞述語	Mukha-ng	[malusog	si	Erap].
	face-LK	healthy	TOP	Erap
	直訳:	エラップは健康の顔だ。		
	訳:	エラップは健康そうだ。		
(11) 動詞述語	Mukha-ng	[sa=sabog=na	ang	bulkan].
	face-LK	AF:CONT-erupt=already	TOP	volcano
	直訳:	火山がもう噴火する顔だ。		
	訳:	火山がもうすぐ噴火しそうだ。		

例文(9)～(11)

節が動詞述語の場合、アスペクトやフォーカスの制約はない。

- (12) Mukha-ng [b-um-i-bili ngayon ang lalaki nang
face-LK AF:IPFV-buy now TOP man GEN
bago-ng kotse].
new-LK car
直訳: 男は今、新しい車を買っている顔だ。
訳: 男は今、新しい車を買っているところのようだ。
- (13) Mukha-ng [b-in-ili kahapon nang lalaki
face-LK PF:PFV-buy yesterday GEN man
ang bago-ng kotse].
TOP new-LK car
直訳: 男は昨日、その新しい車を買った顔だ。
訳: 男は昨日、その新しい車を買ったようだ。

例文(12)、(13)

[binata=pa=siya]自体は、「彼はまだ独身です」という意味の独立した文として成り立ちます。これに mukha-ng が付いて、「彼は独身の顔だ」という直訳になるのですが、意味としては「彼はまだ独身のようだ」、見た目から判断してそういうふうに言っているということです。顔には限りません。

(11)の形を少し見てくださいと、動詞の形、sa-sabogのところ。これは未然相というアスペクトを持っていて、行為者焦点の形です。すなわちアスペクトとフォーカスによって活用していることが分かります。

今度は、節が動詞述語の場合について、アスペクトやフォーカスの制約があるかどうかというと、ありません。

例えば(12)の節は未完了相の節で、行為者焦点の形です。(13)の方は完了相で、対象焦点の形になっています。つまり、完了したこと、すなわち今見

話者が実際に見ていなくても、状況から推論する場合にも用いる。

- (14) Mukha-ng [isda ang i-p-in-i-prito nang lalaki].
face-LK fish TOP PF:IPFV-fty GEN man
直訳: 男が揚げているのは魚の顔だ。
訳: 男が揚げているのは魚のようだ。

例文(14)

ていることでもなく、この構文を使って「～のようだ」「男は昨日その新しい車を買ったようだ」と言うことができます。

今までの例は、話者が実際に見てという例が多かったわけですが、実際に見たことに基づく例が多いのは、多分 mukha「顔」という単語を使っていることから、視覚的な情報に基づくのが基本的な意味と考えられるわけなのですが、それには限りません。実際に見ていなくても、

周囲の状況から推論する場合にも用います。

(14)は、例えばにおいをかいで、そういう状況から「男が揚げているのは魚のようだ」という推論をしている例です。フィリピン人は、魚をフライにして食べるのが好きなのです。

2.不定形タイプ

今度は不定形タイプの方を見ていきたいと思えます。不定形タイプの場合の名詞はどういうものが使われるかというと、「計画」「習慣」「運命」などの意味の名詞を用います。これもやはり借用語がなぜか多いです。それから、リンカーは前の語がどのような音で終わるかによって決まります。節は不定形です。不定形はアスペクトを持たない、英語で言ったら不定詞のような形ですが、節自体が独立して、文としては成り立たない節のことです。意味はそれぞれ名詞によって、「～する計画だ」「～する習慣だ」「～する運命だ」という意味を表します。

(15)～(17)は不定形タイプの人魚構文の例になります。動詞は、(15)や(16)は対象焦点の形、(17)は行為者焦点の形になっています。動詞はフォーカスでは

活用するのですけれども、アスペクトによっては活用しません。すべて不定形で、不定詞のような形になっています。

さらに注目したいのが、行為者名詞句の形です。(17)では、節が行為者焦点形になっています。行為者である「ピラール」が主題の形、すなわち人名の場合にはsiが選ばれることが予測されますが、属格のniという形で起こることもでき、むしろ属格でしか起こらない場合が多いのです。

次の場合を見てみましょう。(18)では節が自動詞節なので、必然的に行為者焦点の形になるのですけれども、行為者である「ノイ」は主題格が起こらず、siは駄目で、属格のniしか許されません。ちなみにこれは先ほどのmukha-ngを使った定形タイプとは大きく異なる点です。mukha-ngを使った定形タイプでは、Cf.にあるように節が行為者焦点の場合には行為者名詞句を主題にしなくては いけません。これは普通の文と同じです。

それから、(19)は主題格が可能な場合もあります。属格はどんな場合でも可能です。この辺はまだよく分からないのですが、主題格が許されるのは「いなくなる」「負ける」など、意図的でない意味の動詞の場合に限られるようであると言えます。

こういうことから見ていきますと、さらに不定形タイプでは、節の中の行為者名詞句は文頭の名詞の直後に起こることもできます。

(15)Plano-ng	[apruha-han	nang	gobyerno	ang	
plan-LK	approve-PF:INF	GEN	government	TOP	
	pag-import	nang	bigas].		
	NMLZ-import	GEN	rice		
	直訳:	政府の米の輸入を認める計画だ。			
	訳:	政府は米の輸入を認める計画だ。			
(16)Tradisyon-g	[ipag-diwang	nang	manga Filipino	ang	Easter].
tradition-LK	PF:INF-celebrate	GEN	PL Filipino	TOP	Easter
	直訳:	フィリピン人のイースターを祝う伝統だ。			
	訳:	フィリピン人はイースターを祝う習慣だ。			
(17)Kapalaran-g	[ma-wala	si / ni	Pilar	sa	
fate-LK	AF:INF-disappear	TOP/GEN	Pilar	OBL	
	Maynila	upang	ma-kita	si	Pepe].
	Manila	in order to	PF:INF-see	TOP	Pepe
	直訳:	ピラールは/のペペに会うためにマニラでいなくなる運命だ。			
	訳:	ピラールは、ペペに会うためにマニラでいなくなる運命だった。			

例文(15)–(17)

(18)Plano-ng	[b-um-isita	ni / *si	Noy	sa	
plan-LK	AF:INF-visit	GEN/*TOP	Noy	OBL	
	Davao	bukas].			
	Davao	tomorrow			
	ノイは明日ダバオを訪問する予定だ。				
Cf. Mukha-ng	[b-um-isita	si / *ni	Noy	sa	
plan-LK	AF:INF-visit	GEN/*TOP	Noy	OBL	
	Davao	bukas].			
	Davao	tomorrow			
	直訳:	ノイの明日ダバオを訪問する顔だ。			
	訳:	ノイは明日ダバオを訪問するようだ。			
(19)Kapalaran-g	[ma-talo	ni / (?si	Erapnoon-g	eleksyon].	
fate-LK	AF:INF-lose	GEN/TOP	Erap last-LK	election	
	エラップは先の選挙で負ける運命だった。				

例文(18)、(19)

(17)Kapalaran-g	[ma-wala	si / ni	Pilar	sa	
fate-LK	AF:INF-disappear	TOP/GEN	Pilar	OBL	
	Maynila	upang	ma-kita	si	Pepe].
	Manila	in order to	PF:INF-see	TOP	Pepe
	直訳:	ピラールは/のペペに会うためにマニラでいなくなる運命だ。			
	訳:	ピラールは、ペペに会うためにマニラでいなくなる運命だった。			
(20)Kapalaran	ni / *si	Pilar	na	[ma-wala	sa
fate	GEN/TOP	Pilar	LK	AF:INF-disappear	OBL
	Maynila	upang	ma-kita	si	Pepe].
	Manila	in order to	PF:INF-see	TOP	Pepe
	直訳:	ペペに会うためにマニラでいなくなるピラールの運命だ。			
	訳:	ピラールはペペに会うためにマニラでいなくなる運命だった。			

不定形タイプ 例文(17)、(20)

政府は米の輸入を認める計画だ。

- (15) Plano-ng [apruha-han nang gobyerno ang
plan-LK approve-PF:INF GEN government TOP
pag-import nang bigas].
NMLZ-import GEN rice
- (21) Plano nang gobyerno-ng [apruha-han ang
plan GEN government-LK approve-PF:INF TOP
pag-import nang bigas].
NMLZ-import GEN rice

不定形タイプ 例文(15)、(21)

ただし、(17)のように節の中では主題格が許されますが、(20)のように文頭名詞の直後にピラールが起こる場合は必ず属格niの形でなければなりません。

文頭の名詞の直後に、節の中の行為者名詞句が起こることができるのは、不定形タイプに限られています。(15)のように行為者名詞句の「政府」gobyernoは節の中にも起こることができるし、(21)のように、文頭の名詞Planoの直後に属格の形で起きることもできます。先ほどのmukha-ngを使った定形タイプでは、mukha-ngの直後に行為者名詞句を置くことはできません。

いろいろ言いましたが、タガログ語には二つのタイプの人魚構文が存在して、節が定形か不定形かという違いだけでなく、行為者名詞句のさまざまな興味深い振る舞いの違いがあることが分かります。

◆おわりに

人魚構文はこうして見てきたように、述部末尾言語だけでなく、述部先頭言語にも存在することが分かります。さらに複数のタイプが存在するという事です。これは当然、日本語だけを見ては、分からなかったことです。今日のお話では人魚構文を例として見てきたわけですが、あるタイプの言語に特徴的と思われるような現象も、一見全く異なるタイプの言語に存在することが分かります。そして、その言語現象の本質を知る上で、その言語のみや

系統・類型の近い言語だけを見ては、分からないこともあります。

このようなことから、今後の日本語研究のあり方について考えてみますと、今後はこれまで以上に世界のさまざまな言語との対照研究を軸に行っていく必要があると思われます。その

際、従来のように外国語の言語現象を、日本語に当てはめて考えるというやり方ではなく、それも必要ですが、それに加えて、日本語に特徴的と思われるような現象を、世界の言語で検証していくという、日本発の人魚構文の研究に象徴されるような方向性も必要であろうと思われます。どうもありがとうございました。

日本語と韓国語、どこが似ている、どこが違う

金 廷珉 (慶一大学 助教授)

講演
2

キム ジョンミン

慶一大学 (大韓民国) 助教授 (当時)。専門は、韓国語と日本語の対照研究。著書に「言語・脳・認知の科学と外国語習得」(共著、ひつじ書房、2009年)など。



皆さん、こんにちは。わたしはちょうど1年前まで日本で韓国語を教えていましたが、現在は韓国の大学で日本語を教えています。今日は人魚構文の話を中心に、韓国語が日本語とどのように違うかという点についてお話をしたいと思います。

◆日本語と韓国語の一般的な類似点と相違点

1. 韓国語の簡単な紹介: ハングルの起源、文字の作り (子音、母音)、発音体系

韓国語は、皆さんもご存じかもしれませんが、日本語と非常に似ている言語です。言語の名称としては、日本では「ハングル語」という呼び名を耳にすることがあります。ハングルは日本語の平仮名と片仮名に相当する文字のことで、言語の名称は「韓国語」です。ハングルという文字は、韓流ドラマの時代背景にもなっている朝鮮王朝時代の4代目の王様が、誰にでも分かるような文字を作ろうということで作りました。当時は中国語から入ってきた漢字を使っていましたので、文字が読めない人がたくさんいました。そこで、誰にでも分かるような文字を作るということで作られたのがハングルです。現在は韓国と北朝鮮、旧ソ連などで使われており、約7800万人が使用しているといわれています。

文字の体系としては、基本的に子音字母と母音字母の組み合わせで1文字を構成します。子音は全部で19個あります。母音は日本語より数が多く、基本母音と複合母音を合わせて、21個あります。

2. 両言語の類似点

一般的な類似点を幾つか挙げたいと思います。まず、語順がほぼ同じです。単語の語彙の種類として、日本または中国語から入ってきた漢字語、日本語でいえば和語に当たる固有語、それから、主に欧米から取り入れた外来語があります。他にも、日本語の「～れる、～られる」に相当する受け身形や、「～せる、～させる」に相当する使役形、過去形などもあります。

次に敬語についてです。儒教の影響もあり、韓国語は敬語が非常に発達しています。例えば日本語の場合ですと、尊敬の「～れる、～られる」や、「見る」に対する「ご覧になる」、「食べる」に対する「召し上がる」などの尊敬語があります。また、韓国語は尊敬を表す、「-(으)시-/-(u)si-」という先語末語尾があります。例えば「行く」という意味の動詞ka-taは、kaとtaの間に-si-を入れると「行く」に対して、「いらっしゃる」というような尊敬語になります。

3. 両言語の相違点

このように敬語が発達しているという点で、日本語と韓国語は共通していますが、尊敬語の使われる範囲に違いがあります。例えば会社の上司あてに取引先から電話が来たとき、日本語では相手に「田中部長は今、席を外しております」という謙讓語を使います。一方、韓国語では年齢や肩書きなどが優先されますので、社長は自分より肩書きが

上の場合、取引先の相手に対しても「金社長様は今、席にいらしゃいません」という尊敬語を使うということがあります。これが日本語と典型的に違うところです。

先ほど「-(으)시- /-(u)si-」が敬語を表す先語末語尾と言いましたが、最近、昔は無かった用いられ方が見られます。例えば先生に先輩のことを話す際にも、過剰に敬語を使用する現象が最近見られます。他にも私にとっては違和感がある敬語の使い方があります。例えば、私がデパートに行って服を選んでいる時に、店員に「これ、赤い色もありますか」と聞きます。そうすると店員は赤色の服がないことを話す場面で、「없습니다 /eps-supni-ta(ありません)」のように丁寧語を使うだけで十分なところに、「없다/eps-ta(ない)」に、先ほど言った尊敬の接辞「-시-/-si-」を使って「없으세요/eps-useyo(おありではございません)」という言い方をします。しかし、「-(으)시- /-(u)si-」はもともと尊敬の対象が「人」の場合に使用可能な接辞ですので、「もの」である「服」には使えないのですが、最近このような敬語の過剰使用という現象が韓国語で見られています。

ここまでが、韓国語と日本語の一般的な類似点と相違点の話でした。

◆人魚構文に関する日韓対照分析

1. 人魚構文(体言締め文)の定義:[節]+[体言]+[コピュラ]の構造を持つ文

次に、人魚構文に関する話をしたいと思います。先ほど角田先生の説明にもあったように、前半部に動詞述語文が来て、次に「予定」のような名詞が来ます。そして「だ」や「です」のコピュラを持つ構造を人魚構文と言います。このような構文が韓国語にあるかという、存在します。非常にたくさんあります。

この人魚構文は、大きく三つのタイプに分けるこ

とができます。そのまえに、ここで覚えておいていただきたいのは、「太郎は明日大阪に行く」という終止形と、「行く予定」の連体形が日本語では同じ形ですが、韓国語の場合は文末の最後に来る終止形と、名詞を修飾する動詞の形(連体形)が形態的に違うということです。それが後の話にもずっと関係してきます。

2. 韓国語の人魚構文のタイプ

先ほど三つのタイプに分けることができると言いました。まず一つ目のタイプは、節のタイプで動詞の連体形が用いられる場合です。これが人魚構文の典型例で、連体形の後ろに体言、そしてコピュラが続きます。

二つ目のタイプは、動詞を連体形ではなく、名詞形にする方法です。名詞形にする接辞には「-기(-ki)や(-로)음/-(u)m」があります。その他の点は一つ目のタイプと同じです。

三つ目のタイプは、連体形が用いられはしますが、一つ目のタイプとは異なり、最後がコピュラではなく、補助動詞という別の動詞、つまり、コピュラ以外の動詞が来る形です。

このように三つのタイプがありますが、例を集めてみると膨大なので、今日は典型的なタイプということで、タイプ1に絞って調査結果をお話したいと思

韓国語の人魚構文の3つのタイプ

タイプ1: [節(連体形)]+[体言]+[コピュラ]

タイプ2: [節(名詞形)]+[コピュラ]

タイプ3: [節(連体形)]+[体言]+[補助動詞]

※[体言]の位置に現れる名詞の種類と意味は以下の3つに分類できる。

- (I) 普通(一般)名詞
- (II) 形式名詞 1
- (III) 形式名詞 2

韓国語の人魚構文3つタイプ

ます。「太郎は明日大阪に行く予定だ」が、タイプ1に当たる例文です。動詞が連体形で、後にコンピュータが来るタイプです。

3.分析方法

私は日本語を基準にして韓国語を対照しました。その基準になったのが角田先生のご研究です。日本語との対照に当たって、まず前半部の連体節、連体形が修飾する体言(名詞)、そしてコンピュータの三つに分けます。そして最初に連体形が修飾する名詞の種類とその意味を調べました。次に、前半部の連体節の中の形態的な特徴、3つ目にコンピュータの特徴を調べました。最後に、日本語では「奇妙な文」とありましたが、韓国語においてこのような人魚構文がどのように位置づけられているか、韓国国内の先行研究では、このことについては論じられていません。そこで、統語的な比較を人魚構文以外の構文と行いました。

それでは、順番に調査結果をお話します。体言の位置に現れる名詞は非常にたくさんあります。そこで、いくつかのタイプに分けてみました。(I)は普通名詞、つまり一般の名詞です。(II)と(III)は、いわゆる言語学で言うところの、文法化した名詞のことです。これらの名詞は本来の意味を失った名詞で、韓国語では形式名詞や依存名詞などと呼ばれています。文法化した名詞は更にタイプ(II)と(III)に分けました。(II)と(III)は、(III)の方がより文法化が進んだ名詞ということです。

①【体言】の位置に現れる名詞の種類と意味は

次に、普通名詞に関して日本語と韓国語の対照を行って

みました。まず、角田先生による日本語の名詞の意味分類に項目の一つを追加し、全部で12個に分類しました(表1参照)。「意志」類、「感情」類、「習慣」類など、たくさん名詞がありますが、日本語に使われている名詞が韓国語においても使えるかどうかを、私の内省や、インターネットなどで検索して、例文があるかどうか調べました。

その結果、ほとんど全てが使えるようです。ただし、一部の名詞、「決心」や、「習わし」などの「習慣」類、「疑い」類に相当する名詞の場合は、少し不自然なものがありました。

次に例文を見てみますと、例えば「感情」類に相当する「気持ち」「気分」です。次に、日本語の「雰囲気」は韓国語では「분위기/punwiki」です。それから、「私はすぐ飽きる性格だ」の「성격/sengkyek、性格」という名詞です。

対応はしていても、名詞を一個一個見てみると少しばらつきがあるものがありました。それが1、2、3、6、8、12類に属する名詞です。例えば「意志」類に相当する名詞として「意向」「覚悟」「方針」「考え」などがあります。これらは使うことはできますが、「決意」や「決心」の場合は少し使いにくいです。インターネットなどを検索しても例が出てきません。そ

[1]	「意志」類	意向, 所存, 気, 気持ち, 考え, 決心, 決意, 姿勢, 覚悟, 方針 など
[2]	「段取り、見込み」類	段取り, 運び, 方向, 見通し, 見込みなど
[3]	「状況、結果」類	様子, 気配, 模様, 状態, 状況, 形 など
[4]	「感情」類	感じ, 気, 気持ち, 気分, 思い, 心境など
[5]	「印象、雰囲気」類	印象, 感じ, 赴き, 雰囲気, 感触 など
[6]	「習慣」類	傾向, 風潮, 習わし, 風習, 習慣, 生活など
[7]	「人間の性格」類	性格, 性質, 気質, たち, タイプなど
[8]	「役目」類	役目, 役割, 責任, 立場, 資格, 運命 など
[9]	「体の特徴」類	体, 体つき, 体質, 表情, 口ぶり, 姿勢など
[10]	「無生物の構成」類	仕組み, 構造, 内容, スタイルなど
[11]	「時間」類	時間, 支店, 途中, 直後など
[12]	「疑い」類	疑い

表1 名詞の意味の12の分類

(1) 나는 그와 싸울 **각오**/***결심**/***결의** 이다.

Na=nun ku=wa ssawu-l **kako**/* **kyelsim**/* **kyeluy** =(i)-ta.

私=は 彼=と 戦う-連体形 覚悟 決心 決意= コピュラ-終結語尾
「私は彼と戦う**覚悟/決心/決意**だ。」

(2) 아기는 우는 **모양**이다.

Aki=nun wu-nun **moyang**=i-ta.

子供=は 泣く-連体形 模様=コピュラ-終結語尾
「子供は泣いている**模様**だ。(ようだ)」

例文(1)、(2)

それが例文(1)です。「覚悟」は使えますが、「決心」や「決意」は使いにくいです。

次に、「習慣、習わし、慣習」は、韓国語では少し使うのが難しい気がします。「習慣です」や「習わしです」という表現よりは、「習慣、慣習があります」といったような表現の方が自然です。それから役目の場合も、「役割」や「立場」は使えますが、「責任」や「資格」は使えないことが分かります。

「疑い」類に属する名詞として「嫌疑」や「疑惑」があります。「嫌疑」は使えますが、「疑惑」は韓国語では不自然です。ここまでが普通名詞に関する日韓の比較です。

次は形式名詞です。これは単純に日本語と比べることはできません。韓国語には、形式名詞の数が100個以上と非常に多く、種類が豊富です。しかし、それが人魚構文の中で使われた場合は、アスペクト的な意味を表したり、進行などを表すアスペクト的な意味、モーダルな意味を表す点で日本語と共通していることが分かりました。ここでは、普通の生活でよく使われる、比較的生産性が高い依存名詞を八つぐらい取り上げたいと思います(表2参照)。

例えば元の意味には「模様、法、道、数え、計算、幅、板、方、土・場所」があります。MMCは人魚構文のことで、マーメイド・コンストラクションの略

です。人魚構文の中で使われた場合は、証拠性やモーダル、アスペクトなどの意味を表すことが分かります。例文(2)をご覧ください。「子どもが泣いている模様だ(ようだ)」という例文です。また、「법/pep(法)」は人魚構文の中で使われると、日本語の「～するものだ」と道徳的な「助言」や「真理」などの意味として使われます。それ

から「길/kil(道)」は、「私は今銀行に行くところだ」のような、日本語で言うところの「～するところだ」の意味として使われます。

次はもう一方の形式名詞、タイプ(Ⅲ)です(表3参照)。ここでは5つの依存名詞を選びました。まず、日本語の「こと」「の」に相当する「것/kes」です。次に、前に言ったことや文脈全体を受けたり、「～次第です」という意味の「마/pa」です。あとは「役割」や「時間」「～している最中」に当たる「지경/cikyeng、노릇/nolus、참/cham、차/cha、중/cwung」があり、これも同じくモーダルな意味を表したり、アスペクト的な意味を表したりしている点では日本語と共通しています。

例えば「마/pa」の例をみてみましょう(例文(3)参照)。日本語に直訳すると、「これで私の挨拶に代わる次第です(ことです)」という例です。おそらく

名詞	もとの意味	MMC内の意味
[1] <i>moyang</i>	모양 模様	evidential : 様子
[2] <i>pep</i>	법 法	modal : 義務、不変の真理
[3] <i>kil</i>	길 道	aspectual : 進行
[4] <i>seym</i>	셈 数え	modal : 意図、予定
[5] <i>phok</i>	폭 幅	aspectual / temporal : 否定的な状況
[6] <i>phan</i>	판 板	evidential : 状態
[7] <i>phyen</i>	편 便(方)	aspectual : 習慣、傾向
[8] <i>the</i>	터 土、場所	aspectual : 進行 modal : 義務、推測

表2 形式名詞1の種類と意味分類

名詞	もとの意味	MMC内の意味
[1] <i>kes</i>	것 こと・の	様々なモーダルな意味 (説明、義務、強い意志など)
[2] <i>pa</i>	바 こと・次第	~次第です。
[3] <i>cikyeng, nolus</i>	지경 地境・局面 노릇 役割	(否定的な)状況、状態
[4] <i>cham, cha</i>	참, 차 時間	aspectual : ところ
[5] <i>cwung</i>	중 ~中	aspectual : ところ、進行

表3 形式名詞2の種類と意味分類

(3) 이것으로 인사를 대신하는 **바**입니다.

ikes=ulo insa=lul taysinha-nun pa=i-pni-ta.
 これ=で 挨拶=を 代わる-連体形 こと=コピュラ-丁寧-終結語尾
 (直訳)「これで(私は)挨拶に代わる**次第**です。」
 ⇒ 「これで挨拶とさせていただきます。」

例文(3)

日本語では「これで挨拶とさせていただきます」に相当すると思います。

それから、「지경/cikyeng(地境)」は、「状況」や「局面」という意味です。自然な日本語訳にすると、「私はこのごろ疲れて死にそうだ」、「~しそうだ、~するような状況だ」になると思います。ここまですが名詞に関する話です。

② 節内の形態的特徴は

今度は、節の中の形態的特徴です。先ほど、必ず連体形が来なければいけないという話をしました。連体形は、韓国語では非常に複雑な体系を持っています。日本語の方を先に見てみますと、例えば日本語では、動詞や形容詞の場合、終止形と連体形は同じ形で、ナ形容詞やコピュラの場合は終止形が「-da」、連体形が「-na」という違いがあるだけです。しかし、韓国語の場合、どんな用言でも終止形と連体形の形が違います。更に、連体形は過去形、非過去形、現在か過去完了

か、過去を回想しているのか、まだ実現していないことについて述べているのか、など、細かく分かれています。ですから、これが日本語と韓国語を比べる上で非常に重要なポイントであると言えます。韓国語では、連体形の形がこのように細かく使い分けられていて、更にこの連体形の種類と、連体形の後ろに来る名詞との共起に制約が見られ、共起関係、結合関係によって、文の全体の意味が変わります。

表4は連体形の種類と、形式名詞1の共起関係を示したものです。「+」は結合可能なもの、「-」

はできないもの、「?」は微妙なものです。例えば「模様」と言った場合はほとんどの連体形も現れることができます。「법/pep(法)」は現在の連体形「-는/-nun」だけが共起します。全体を見てみても一般的な規則は言えないのですが、一つ言えるのは「-는/-nun」は全て共起可能ですが、あとは結合関係にばらつきが見られます。

次は形式名詞2の方も、また結果がそれぞれ異

	NPST -nun	PST -n	RETRO -ten	PRETRO -ss ten	PROS -(u)l	PPROS -ss ul
[1] <i>moyang</i> ‘模様’	+	+	+	+	+	-
[2] <i>pep</i> ‘法’	+	-	-	-	-	-
[3] <i>kil</i> ‘道’	+	-	+	-	-	-
[4] <i>seym</i> ‘数え’	+	+	+	+	+	?
[5] <i>phok</i> ‘幅’	+	+	-	-	-	-
[6] <i>phan</i> ‘板’	+	+	-	-	+	-
[7] <i>phyen</i> ‘便’	+	+	+	+	-	-
[8] <i>the</i> ‘土地、場’	+	+	+	+	+	+

表4 形式名詞1と連体形の種類

	NPST -nun	PST -n	RETRO -ten	PRETRO -ss ten	PROS -(u)l	PPROS -ss ul
[1] <i>kes</i> 'もの・こと'	+	+	+	+	+	+
[2] <i>pa</i> 'こと・次第'	+	-	?	?	-	-
[3] <i>cikyeng, nolus</i> '局面、役割'	+	+	?	?	+	+
[4] <i>cham, cha</i> '時、瞬間'	+	+	+	+	+	-
[5] <i>cwung</i> '中'	+	-	+	-	+	-

表5 形式名詞2と連体形の種類

なりますので、一般化することはできませんが、現在連体形の「-는/-nun」とはすべて結合可能です(表5参照)。

先ほど言いましたように、共起関係によって意味が変わることがあります。例えば例文(4)と(5)をご覧ください。「셈/seym(数え)」という名詞は「세다/sey-ta数える」という動詞から出来た派生名詞です。「셈/seym(数え)」は、未実現の連体形と結合して「-을 셈이다/ -(u)l seym=i-ta」という形になると、強い意志を表します。例えば日本語の「何とかする」「絶対～する」「～するつもりだ」のような意味です。「셈/seym(数え)」が既実現である現在の連体形、または過去の連体形と結合した場合は、「～したわけだ」のような判断を表したり、「～に等しい」など、類似した状況を表します。

形式名詞2の「こと、の」に相当する「것/kes」

(4) 우리는 이번 시험에서는 우승 **할 셈이다.**

Wuli=nun ipen sihap=eysel=nun wusungha-l seym=i-ta.
 私たちはは 今回 試合=で=は 優勝する-連体形 数え=コピュラ-終結語尾
 「私たちは今度優勝する**つもりだ。**」

(5) 시어머니께서 나를 살리**신 셈이다.**

Siemeni=kkeyse na=lul salli-si-n seym=i-ta.
 義理の母=が 私=を 救う-尊敬-過去連体形 数え=コピュラ-終結語尾
 「義理のお母さんが私を救った**ことに等しい。** / 救った**わけだ。**」

例文(4)、(5)

も同様に、未実現の「-을 것이다/ -(u)l kes=i-ta」という形だと、自分の意志や、第三者に対する推測を表します。「～するだろう」「～するつもりだ」のような意味です。一方で、これも「-는/ -nun」や「-ㄴ/ -n」という現在または過去の連体形と結合した場合は、いわゆる「のだ文」の意味を持ち、前の文脈に対する説明や判断などを表します。未実現の連体形の場合は意志を表します。一方で、過去の連体形と結合した場合は「～したわけだ」「～したことに等しい」という意味になります。

日本語にもこのような現象はあります。例えば「つもり」です。「太郎は明日東京へ行くつもりだ」のように「つもり」が非過去形の連体形と結合した場合は、これから起こる計画や予定、意志などを表します。しかし、「花子は一生懸命努力したつもりだ」のように過去形と結合した場合は、自分の行動に対する評価を表します。日本語にもこのような現象はありますが、韓国語の方が多いような気がします。

③ コピュラは活用するのか

次はコピュラです。日本語の「だ」に相当するのが「이다/i-ta」です。「이다/i-ta」は活用します。過去形もありますし、否定形もあります。省略も可能です。活用形はスピーチレベルによって、非過去形か、過去形かによって変わります(例文(4)(5)参照)。

次はコピュラの有無ですが、コピュラがない場合、日本語ではコピュラがない方、つまり名詞で終わっている場合は、より聞き手目当ての意味を表すという指摘がなされています。しかし韓国語では、「こと」「の」に相当する「것/kes」以外は、コピュラの有無がそれほど関係していないようです。例

えば日本語の「のだ」「ものだ」のように、「だ」が付いている場合と、「だ」が付いていない場合とでは意味が変わってきます。「だ」がない方が、普通に説明や主張を表すだけではなくて、談話にプラスアルファ的な意味があることが先行研究で指摘されています。例えば「学位を取ることだ」。「だ」が付いている場合と「学位を取ること」を比べてみると、後者には相手への何らかの命令や指示を表す意味が必ず含まれます。

韓国語の場合、例えば「터/the」はもともと「土、地面」という意味の依存名詞ですが、コンピュータがない場合とある場合で、それほど意味的な違いはなく、どちらも「～する予定だ、つもりだ」という意志を表します(例文(6)参照)。ただし、「kes」の場合は付いているのと付いていないのとで意味が変わります。付いていない場合は、必ず相手への命令や指示を表します。一方で、コンピュータが付いている場合は、これからの自分の意志を表します(例文(7)、(8)参照)。

④ 人魚構文と他構文との比較

最後に、人魚構文と他構文との違いです。従来の韓国における先行研究において、人魚構文は、「学生です」などの名詞文の一種類や下位分類

として扱われており、ほかの構文との比較はほとんどされていません。そこで今回、(1)指示詞による修飾可能性、(2)形容詞による修飾可能性、(3)「이/i、가/ka(が)」、「의/uy(の)」の交替、(4)主題化、(5)分裂、(6)関係節の主語になれるか、の6つのテストを行いました。比較する構文は、連体修飾節の内の関係(a)と外の関係(b)、「～するとき」の「とき」という名詞が含まれている時間を表す副詞節(c)、それから普通名詞(d)、形式名詞1(e)、形式名詞2(f)はそれぞれ人魚構文のタイプです。非常に数が多くて、これを一緒にしてしまうと結果が違ってくるので、細かく分けました。最後に普通の動詞文(g)と名詞文(h)を比較してみました。

結果を見てみますと、(1)～(3)のテストにおいては、人魚構文の(d)(e)(f)は(c)時間副詞節と同じ結果になります。まず、(1)の指示詞との共起可能性において、人魚構文の場合、「友達は日本に行くその予定だ。」の「予定」は、指示詞「その」の修飾を受けることができません。一方で、(h)名詞文の場合は、「私の友達はこの医者だ。」のように、指示詞と共起可能です。次に、(2)の形容詞による修飾可能性に関しては、人魚構文の場合、「友達が日本に行く急な予定だ。」のように、形容詞「急な」の修飾を受けることはできません。

次に、「が」「の」交替があります。日本語では、例えば「私が行く道」の「が」を「の」に置き換えることができます。韓国語はこの現象が、ある例文に限ってはできるのですが、日本語ほど生産的にはこの交替が起こりません。その結果、連体修飾節ではばらつきがあり、できる場合もあれば、できない場合もあります。一方で、ほ

(6) 나는 나를 도와준 사람들에게 꼭 보답할터/터이다.
 Na=nun na=lul towacu-n salam-tul=eykey kkok potapha-l
 私=は 私=を 手伝ってくれる-連体形 人-複数=に 必ず 返す-連体形
 the/ the=i-ta.
 土/土=コンピュータ-終結語尾
 「私は私を手伝ってくださった方々に必ず恩返しするつもり/つもりだ。」

(7) 회의에 참석할 것.
 Hoyuy=ey chamsekha-l kes.
 会議=に 参席する-連体形 こと
 「会議に参席すること。」

(8) 나는 오후에 회의에 참석할 것이다.
 Na=nun ohwu=ey hoyuy=ey chamsekha-l kes=i-ta.
 私=は 午後=に 会議=に 参席する-連体形 こと=コンピュータ-終結語尾
 「私は午後、会議に参加する(つもりだ)。」

例文(6)-(8)

かの構文では全てできません。

四つ目の主題化は、「は」が使えるかどうかということ。ここからは先ほどの結果とは少し異なってきます。先ほどは(c)と似ている場合が多かったですが、今度は普通の動詞文と名詞文と似たような結果になります。

次は分裂文、強調構文です。「～なのは～だ」というように強調するものを入れたものです。この結果は少し複雑です。まず人魚構文の(e)と(f)の場合は時間副詞節(c)と同じ結果です。できる場合もあれば、できない場合もあります。一方で(d)の普通名詞の場合は、(g)と(f)、普通の名詞文、動詞文と同じ結果になりました。

最後に関係節の主語になれるかどうかですが、ここはほかの構文では可能ですが、(e)と(f)の形式名詞の場合は、できる場合とできない場合があります。

結果をまとめてみますと、このようになります(表6参照)。1～3までは時間副詞節(c)と似た結果です。一方で、4～6を見てみますと、一見(g)と(f)に似ているように見えますが、まだ少しばらつきがありますので、今の段階では、韓国語の人魚構文は連体修飾節(a)と(b)とは違う構文であるということが

一つ言えるかと思います。

◆まとめ

まとめです。韓国語において、体言(名詞)の位置に表れる名詞は、日本語のほとんどの名詞と対応しますが、一部制約が見られます。前半部の連体節の中の用言の連体形と、その後に来る名詞との共起関係に制約が見られるということです。コンピュータの有無によって韓国語はそれほど意味的な違いはありませんが、日本語では、より聞き手目当ての意味として文法化が起こります。両言語ともに特殊で、独自の構文として扱うべきということが言えるのではないかと思います。少し駆け足となりました。ご清聴ありがとうございました。

比較する構文 (8つの構文)

	(a)	(b)	MMC				(g)	(h)
			(c)	(d)	(e)	(f)		
1. 指示詞による修飾可能性	+	+	-	-	-	-	N/A	+
2. 形容詞による修飾可能性	+	+	-	-	-	-	N/A	+
3. 「[ㄷ]/[가(가)]」/「[의(の)]」の交替	+/-	+/-	-	-	-	-	-	-
4. 主題化	-	-	+/-	+	+	+	+	+
5. 分裂	-	-	+/-	+	+/-	+/-	+	+
6. 関係節の主語になれるか	+	+	+	+	+/-	+/-	+	+

表6 調査結果のまとめ

アイヌ語は日本語に似たようなものか？

アンナ・ブガエワ(早稲田大学 准教授)

Anna BUGAEVA

早稲田大学高等研究所准教授(当時)。専門は、アイヌ語コーパス、言語類型論、アイヌ語動詞範疇。主な業績に「音声付きアイヌ語辞典——新編 金澤版アイヌ語会話辞典」(ロンドン大学アジアアフリカ学部HP、2010年)など。



irankarapte(イランカラアテ)。こんにちは。私の母語は実はアイヌ語ではなくて、ロシア語です。私はロシアのサンクト・ペテルブルグ(当時のレニングラード)に生まれました。ペテルブルグという町は北欧に近いところです。私は、ペテルブルグ大学を卒業後、国費留学生として日本にきました。私のアイヌ語の研究は、日本への興味から始まりました。ペテルブルグ大学東洋学部の日本語学科で勉強しているうちに、日本語の起源問題に関心を持つようになりました。日本語の起源問題を探るとき、必ずアイヌ語の話が出てきます。しかし、当時のロシアには、日本人の研究者が書いた論文が全くなかったため、日本に留学することにしました。アイヌ語を研究するならもちろん北海道大学です。北海道大学の大学院に入り、そこで学位を取得し、千葉大学の研究員、そしてオーストラリア・ラトローブ大学の研究員を経て、現在、早稲田大学高等研究所のポストに就任しています(当時)。私の研究分野は記述言語学(アイヌ語)そして、今日、角田先生のご発表にありました言語類型論です。

◆アイヌの背景および現状

「アイヌ」という言葉は、アイヌ語で「人間」という意味です。アイヌ民族は日本とロシアにまたがる北方民族の一つです。昔は、北海道だけではなく、本州の北東部、クリル諸島、そしてサハリン南部にも住んでいました。かなり広い地域に住んでいた民族です。アイヌ民族は自然とともに平和に暮らしていま

した。自然の知恵を学び、素朴な生活を送っていました。そこから伝統的な文化や固有の言語による豊富な口承文芸を生み出しました。

なぜ口承文芸なのかというと、固有の文字を持たないためです。ただ、文字を持たないことで、どこか劣っているなどということでは絶対にありません。皆さんもご存じだと思いますが、アイヌの有名な文学として広く「ユーカラ」が知られています。この「ユーカラ」を語るのには普通、二晩かかります。かなり複雑で、口承文芸ではありますがとても難しいです。アイヌ語は、文字を持たない言語なので、基本的に録音機を持って言語調査に行き、録音をして、資料を持ってきて、音声から書き起こしをします。アイヌ語を書くためにはローマ字か片仮名を使います。後でご紹介します。

アイヌ語は日本語と同じ言語ではありません。全く違う言語です。アイヌ語は日本語の方言でもありません。先ほど起源問題について少し触れましたが、アイヌ語の起源がどこかということは、実は大問題です。日本語のほかに印欧語族、(ヨーロッパの諸言語、フランス語やロシア語など、また英語のような言語)との比較の試みがありました。その他、アルタイ語族、モンゴル諸言語やトルコの諸言語、ツングース諸語、そしてオーストロネシアの言語との比較の試みもありました。先ほどの片桐先生のお話にありましたが、タガログ語やインドネシア語など、ハワイやマオリの言語は全てオーストロネシア語族に属しています。それから、韓国語、サハリンの原住民



フィールドワークの様子

が話しているニヅフ語、そしてエスキモー語、バスク語までも比較が試みられましたが、いずれも推測のレベルにすぎませんでした。このようにアイヌ語はなかなか不思議な言語です。

アイヌ語には方言差があります。大きく北海道方言、それからクリル方言、サハリン方言に分かれています。北海道の方言内でも大きく二つに分かれています。北東方言と南西方言です。現在、アイヌ語は消滅危機に近い状態です。話者が全くないとはまだ言えませんが、いても3人程度です。みなさん北海道南部の日高地方に住んでいます。私自身が調査をしたのもこの辺りでした。

◆アイヌ語の社会言語学的状況

アイヌ語が日常会話に使用されなくなったのは1950年代ごろでした。その原因は、国家による激しい民族的な言語的な圧制を強いられたことです。その結果、言語の急速な放棄が起こり、残念なことに次の世代に伝わらなくなりました。このような現象は日本に限らず、世界中どこにでもあります。

ロシアにもかなり数多くの言葉がありますが、シベリアなどの原住民の言葉は、アイヌ語と同様にほぼ消滅危機に近い状態です。50年後には全く無くなってしまふ可能性があります。オーストラリアもそうです。そして、今日、角田先生のお話にもありまし

たが、マオリ、それから北アメリカでももちろんそうです。

ただ、近年はアイヌ語の復興活動に力を入れる人が増えてきました。そのきっかけは、アイヌ文化復興法と、アイヌを北海道の先住民とする公的な承認でした。ごく最近のことです。私もこれに協力して、最近オンラインのアイヌ語の会話辞典を作りました。オンラインで4000ぐらいの音声ファイルを聞けるようになっています。参考文献も挙げています。

◆アイヌ語は日本語に似たようなものか？

早速、今日の話題に入りたいと思います。「アイヌ語は日本語に似たようなものか?」、私がよく受ける質問です。結論から言いますと、アイヌ語と日本語は深いレベルで非常に異なる言語です。ただ、似たようなところも、もちろんあります。ロシア語と比べると、日本語の方がずっと近いと言えます。しかし、ロシア語に似たような現象もあります。だからと言ってロシア語と関係があるということでもありません。

日本語とどこが違うか。例えばアイヌ語は、私の母語のロシア語のように動詞が人称による変化をします。人称は「私、あなた、あなたたち、彼ら」などです。代名詞のようなものです。そういう代名詞的な要素を動詞の中に入れて、動詞が変化します。例えばロシア語だと*Я пишу. Мы едим. Ты пишешь. Вы едите. Он/она/они едят。「私が書きます。私たちが書きます。あなたが書きます。あなたたちが書きます。彼ら・彼女・彼らが書きます」と、人称によって動詞の形が変わります。

アイヌ語の「私が魚をとった」という例文は、「(káni) cep ku=koyki.(カニ チェプ ク=コイキ)」です。動詞にくっついている「ku(ク)」は「私」に当たります。外にも「私(káni)」が付いていますが、それは使っても使わなくてもいいです。これは日本語と同じです。「魚をとったよ」のように、「私」と

言わなくてもいいのです。アイヌ語も同じなのです。だから括弧に入れてあります。ただ、この動詞にくっついている「ku」を省略してはいけません。動詞変化は義務的で、ロシア語やスペイン語と同じです。

(káni) cep ku=koyki.

ku = koyki

ク = コイキ

私(が) = とる

「私が魚を取った。」

ただ、ロシア語と違うところは、目的語の標識も付けるという点です。例えば「とる」という動詞は、ほかに「叱る」や「いじめる」などの意味もあるのですが、「私をいじめた」は「en=koyki(エン=コイキ)」になります。ロシア語では目的語の人称によっては変化しません。主語の人称による変化だけです。目的語の変化はありません。日本語と違うところは、「が」と「を」のような格助詞がないところです。「kani(カニ):私」にも何も付いていないし、「cep(チェプ):魚」にも付いていません。だから、誰が誰に対して何をしているかというのは、その動詞の形で分かります。これを省略してはいけません。私は省略してしまってアイヌのおばあさんに何度も何度も怒られました。

それから、片桐先生のお話にもありましたが、アイヌ語もタガログ語と同じように時制のマーカー(標識)がありません。この「koyki(コイキ):とる」という動詞を見ますと、とったか、明日とるか、今とっているかは分かりません。文脈で判断します。副詞を付け、「Nisat-ta(ニサッタ):明日」と言えば未来の解釈になりますが、何も付けないと分かりません。これも少し不思議です。英語を習っている人は、さんざん苦勞して英語の時制やアスペクトを勉強していますが、ロシア人にとってもあれはかなり難しいです。でも、アイヌ語はこの点は何も苦勞しません。

◆アイヌ語にあって日本語にはない動詞の変化

時制の話とは逆に、アイヌ語にあって日本語にはない動詞の変化もたくさんあります。例えば、「私はそのお酒で神の祈りの儀式をする」、祈禱するのです。その場合は、「で」に当たるような格助詞はアイヌ語にもあります。これは「酒で神を祈る」という日本語に似たようなパターンです。全くではないのですが、ある程度似ています。ただ、それを使わないで、格助詞「で」に当たるようなものを、動詞の中に取り込む、「で - 神 - 祈る」という言い方もあります。前者は自動詞だったのですけれども、後者のようなやり方をすると他動詞になります。「酒」は目的語になります。つまり、格助詞、「が」や「を」を除いて、「で」や「と」の格助詞を動詞の中に取り込む場合があります。それは日本語とだいぶ違うところです。

「で」の概念を動詞の接頭辞エで表現する文

ne sake a=e-kamuy-nomi.

ネ サケ ア=エ - カムイ - ノミ.

この/その 酒 主人公の私(が)=で-神-祭る

「私はその酒で神に祈禱の儀式をした。」

[文献4,p.86]

「で」の概念を格助詞で表現する文(日本語と同じ)

ne sake ani kamuy-nomi=an.

ネ サケ アニ カムイ-ノミ=アン.

この/その 酒 で 神-祭る=主人公の私(が)

「私はその酒で神に祈禱の儀式をした。」

ちなみに「神をお酒で拝む」はどういうことなのでしょう。アイヌの宗教は基本的にアニミズムです。動物や植物など、どんなものにも魂があるという信仰です。アイヌの世界像は、大きくkamuy mosirカム

イモシリ(神々の国)とaynu mosirアイヌモシリ(人間の世界)に分かれています。動物は全てカムイで、カムイモシリからアイヌモシリに降りてきます。降りてくるときは、動物を装って降りてきます。本当は人間のような姿をしているのかもしれませんが、人間の世界に来るときは動物の格好をして、毛皮や肉を人間にお土産として持ってくるという考えです。ですから、人間は動物を殺すときに、ただ殺すのではなく、祈りながら殺すべきだという考えが強いです。

例えば猟に行くと熊を獲ると、その場で必ずお祈りをします。酒とイナウを使います。イナウは柳などでできた房状の祭具です。いろいろな形があります。日本から交易で漆物も入ってきていました。これをアイヌの人はお酒を飲んで拜むときに使い、何よりも大事にしていました。自分たちでも立派な木彫りのものを作って日常生活の中で使っていましたが、儀式用の神を拜むときに使うものは日本人が作ったものを使っていました。ですから、アイヌの人にとって、日本人はある意味で交易のとても大事なパートナーでもありました。農業がなかったので、穀物も日本人から手に入れていました。そして漆物をみんなが欲しがり、これで戦争が起こっていたような記録もあります。

もう一つ面白いのは、いわゆる名詞抱合です。日本語で例えば五つの単語でしか言えないような文



囲炉裏の横のイナウ

があります。「私・が・魚・をとった」、五つです。同じような言い方がアイヌ語にもあります。つまり、*kani cep ku=koyki*(カニ チェプ、ク=コイキ)という前に示した文のように幾つかの単語を使っても言えますが、実はこの「*cep*(チェプ)、魚」を動詞の中に取り込むことも可能です。「*ku=cep-koyki*(ク=チェプ、コイキ)私が魚をとった」のようになります。実際抱合されているといえるのは、「*ku*(ク)」が付いているからです。「*ku*(ク)」は一番端っこに付けるので、「*cep*(チェプ)」がその後に来ているから、動詞の一部を成している証拠です。

名詞抱合の文

ku=cep-koyki.

ク=チェプ - コイキ.

私(が)=魚 - とる.

直訳：「私魚釣った。」

「私が魚をとった。」

〔文献4.p.46〕

このように、アイヌ語と日本語はかなり違うにもかかわらず、私自身が早稲田大学でアイヌ語を教えるときには、日本人の学習者から「結構似ているじゃないか」という意見が多いです。同じクラスに留学生のヨーロッパの人がいても、日本人の学習者の方が習得はずっと早いです。私も北海道大学でそういう経験がありました。北海道大学でアイヌ語を勉強したとき、ロシアでは英語のクラスで成績がトップだったにもかかわらず、なぜアイヌ語ではこんなについていけないのか、なぜ一番ではないのかと不思議に思っていました。アイヌ語は、やはり日本人の方が習得が早いです。

その理由は幾つかあると思います。まず日本語とアイヌ語は語順が同じです。両言語の語順はSOV、「私-魚-捕った」です。英語やロシア語だと「私-捕った-魚」です。もう一つの大きな理由は、

角田先生をはじめ、ほかの発表者が紹介した人魚構文です。人魚構文はアイヌ語にもあります。奇妙な人魚です。日本語を勉強するときにもさんざん苦労したのですが、アイヌ語を始めて、また苦労しました。人魚構文はなかなかヨーロッパの言語には訳しづらいです。英語の例文を司会のホイットマン先生に今日紹介していただきましたが、ロシア語には訳し辛いです。いくら辞書を引いても、きれいな文章にはなりません。

◆アイヌ語の人魚構文

アイヌ語にも人魚構文がありますが、日本語ほど「締め」のところの名詞の種類はありません。例えば角田先生のご報告によると、日本語には106種類ありますが、アイヌ語には10種類だけです。しかし、使用頻度が日本語に劣らず非常に高いです。名詞は10種類あって、コピュラは一つ、「*ne*(ネ)」です。時制で変わりません。「予定だった」のような過去形はなく、「予定である」のようになります。名詞はいわゆる所属形を取って、日本語に直訳すれば「～わけだ」ではなく、「～のわけだ」「そのわけだ」のようになります。意味は日本語の場合とよく似ていると思います。いわゆる証拠性とモダリティやアスペクト、そのほかの意味があります。

早速、見ていきたいと思います。「*mosir-pa-un-sar*(モシリ-パウン-サラ)から夜襲が来たのだ」。「夜襲」は、先ほどのイコロ「宝物」、日本人から交易で手に入れた漆を奪いに来たという意味です。ここまでが人魚の頭です。次からが尻尾です。文字どおりで言うと、「モシリ-パウン-サラから夜襲が来た跡である」、あるいは「その跡である」です。*ru-w-e*(ル-ウ-エ)は「その跡」です。

[*mosir-pa-un-sar or wa topattumi ek*] *ru-w-e ne*.
[モシリ-パウン-サラ オロワトパットウミ エク] ル-ウ-エ ネ.
(神話的な地名)ところから 夜襲 来る.単 跡-挿-所属 だ

直訳:「モシリ-パウン-サラから夜襲が来た跡である。」

証拠性推測(思考上の発言)

「モシリ-パウン-サラから夜襲が来たのだ。」

[文献5,p.130]

証拠性とはどういう意味かを説明したいと思います。アイヌ語には時制がありませんが、大事な証拠性というカテゴリーがあります。証拠性は、ある発言の情報源が何であるかということです。アイヌ語においてこの証拠性は人魚構文によって表されています。証拠性の意味を持つ名詞は四つあります。「*ru-w-e*(ルウエ)、～の跡」「*haw-e*(ハウエ)、～の声」「*sir-i*(シリ)、～様子」「*hum-i*(フム-イ)、～の音」です。思考上の発言、伝聞上の発言、視覚上の発言、感覚上の発言のように、情報源がどこにあるかを明確にさせるような面白い構文です。

例えば「もうお前も十分大人になったのだ」は、直訳すると「お前が大きくなった跡だ」となります。その大きくなった人は、今はどこかへ行って自分の目の前にはおらず、私はそのことを思い出してそう思うのです。だから「跡」を使います。

証拠性推測(思考上の発言)

[*tane e=poro*] *ru-w-e ne*.

[タネ エ=ポロ] ル-ウ-エ ネ.

もう 貴方(が)=大きい/大きくなる 跡-挿-所属 だ

直訳:「もうお前も大きくなった跡だ。」

「もうお前も(十分)大人になったのだ。」

[K7708242UP.223]

その次は、「わが長者殿が来(てくれ)たそうです」。直訳すると「来た声だ」になりますが、「来たそうだ」という意味になります。例えば隣人からそのように聞いて言う場合にこのような構文を使います。考えたのでもなく、見たわけでもなく、聞いて、そう

言っているのです。

証拠性報告(伝聞上の発言)

[a=kor nispa ek] haw-e ne.

[ア=コロ ニシパ エク] ハウ-エ ネ.

主人公の私(が)=持つ 長者 来る.単 声所属 だ

直訳:「わが長者殿が来た声だ。」

「わが長者殿が来(てくれ)たそうだ。」

[K8010281.UP.059]

もう一つは様子です。「húci ek kor an sir-i ne. (フチ エク コロ アン シリ-イ ネ)、おばあさんが今来ているところだ」。目の前にいるため、「sir-i(シリ-イ)」を使って、「その様子だ」と言います。

証拠性視覚(視覚上の発言)

[húci ek kor an] sir-i ne.

[フチ エク コロ アン] シリ-イ ネ.

おばあさん 来る.単 つつ 存在する.単 様子所属 だ

直訳:「おばあさんが今来ている様子だ。」

「おばあさんが今来ているところだ。」

[文献2,p.77]

もう一つは、音を意味する語なのですが、もっと広い意味で使われています。「感じ」や、広く感覚全般を意味しています。「子犬が私のそばに来たような気がした(ように私は思って)」という文を見てみましょう。子犬が寄ってきてクンクンしたり、あるいはなめたりしているときに、感覚からわかる場合、「hum-i(フム-イ)」を使います。

証拠性非視覚的(感覚上の発言)

[poyseta en=sam ta ek] hum-i ne...

[ポイセタ エン=サム タ エク] フム-イ ネ...

子犬 私(を)=側 に来る.単 音所属 だ

直訳:「子犬が私のそばに来た音だ。」

「子犬が私のそばに来たような気がした(ように私は思って、)」

[文献6,p.14]

ほかには、モダリテイ、いわゆる話し手の判断としても使われています。例えば、「nisat-ta suy k=ek kus-une na. (ニサツタ スイ ケク クシ-ウ ネ ナ)」は「明日来るつもりだ」。また、「eci=ki kun-i-pne na. (エチ=キ クン-イ-フ ネナ)、あなた達すべし/しなければならない」のような例文です。それから、「isepo ka cironnup ka tap neno a=hopunpare p ne na. (イセポ カ チロンヌフ カ タフ ネノ ア=ホブンパレ フ ネ ナ)、ウサギの靈魂も、キツネの靈魂もこれこれこういうふうにするものだよ」という例文もあります。先ほどの猟の話によく出てくる例文です。獲った動物の靈魂をカムイモシリにちゃんと送る必要があります。そうしないとまた降りて来てくれないのです。降りてこない食べ物なくなるし、人間が消滅してしまいます。

それから、アスペクトの意味です。アスペクトとは、出来事の完成度の違いを表す表現です。「tane ipe=an usi-ke ne. (タネ イペ=アン ウシ-ケ ネ)、今食べているところだ」。

[tane ipe=an usi-ke] ne.

[タネ イペ=アン ウシ-ケ] ネ.

今 食事をする=主人公の私(が) ところ所属 だ

「今食べているところだ。」

[KS #1849]

その他の意味の人形構文もあります。例えば「kamuy renkayne e=pa wa e=siknu-re hi ne aan. (カムイ レンカイネ エ=パ ワ エ=シクヌレ ヒ ネ アアン)、神の力でお前が娘を見つけて、生き返らせたということだったのだな」という例文です。「お前」が「ことだ」というのも人魚構文です。

[kamuy renkayne e=pa wa e=siknu-re] hi ne aan.
[カムイレンカイネ エ=パワ エ=シクヌレ]ヒ ネ アアン
神 お蔭で 貴方(が)=見つける て 貴方(が)
=生きる-させる こと だ ったのだな

「神の力でお前が娘を見つけて、生き返らせたという
ことだったのだな。」

[K8106233UP.156]

そして、「a=an-te-mac-ih i kesuy kat-u ne. (ア=
アン-テ-マチ-ヒ イケスイ カッ-ウ ネ)、私の妻が
家出したのです」は、直訳すると「有様、わけだ」と
いう意味です。

[a=an-te-mac-ih i kesuy] kat-u ne.

[ア=アン-テ-マチ-ヒ イケスイ] カッ-ウ ネ.

主人公の私(が)=存在する-させる-女-所属 家
出する 有様/わけ-所属 だ

「私の妻が家出したのです。」

[文献1,p.40]

先行研究では、こういった人魚構文は連体修飾
構文として扱われていました。しかし、角田先生のご
研究と、今回のプロジェクトのおかげで、これは単
一構文だということが分かりました。とてもいい刺激
を受けました。今日、金さんからご紹介いただいた
統語的なテストをすると、やはり連体修飾構文では
なくて、単文構文だということが分かります。その名
詞の元の意味が、だいぶ薄れてきていることも分か
ります。

それから、アイヌ語の特徴としては、いわゆる二
重人魚構文もあります。頭が一つあり、尻尾がさら
に長くなっているような構文です。

例えば「e=unu-hu cis kor e=resu kat-u ne ru-
w-e ne na. (エ=ウヌ-フ チシ コロエ=レス カッ
-ウ ネ ル-ウ-エ ネ ナ)、お前の母が泣きなが

らお前を育ててくれたというわけなのだ」。直訳する
と「その有様だ。その跡だよ」という感じです。こう
いったものの使用頻度は高いです。意味的に違う
たぐいの名詞がよく組み合わせられます。

[e=unu-hu cis kor e=resu] kat-u ne ru-w-e ne na.

エ=ウヌ-フ チシ コロエ=レス カッ-ウ ネ ル-ウ-エ ネ ナ。
貴方(の)=母-所属 泣く つつ貴方(を)=育て
る 有様/わけ-所属 だ 跡-挿-所属 だよ

「お前の母が泣きながらお前を育ててくれたという
わけなのだ。」

[文献3,p.425]

◆おわりに

アイヌ語の人魚構文は、日本語の影響で発達
した可能性もありますし、あるいは、既にアイヌ語に
あったものが顕著になってきた可能性も少なくない
と思います。アイヌ語は日本語から文法的な影響を
かなり受けていると思います。誰もまだ研究していな
かったことですが、これから詳しく見ていきたいと思
います。

逆はどうかと言うと、日本語はアイヌ語の文法か
ら全く影響を受けていません。そういうものは一つも
思いつきません。あったとしても借用語がある程度
です。「シャケ」や「シシャモ」などはご存じのように



アイヌ語話者から聞き取りを行う講演者

アイヌ語ですが、文法的なレベルでは、そういうものはありません。

ご清聴ありがとうございました。*iyayraykere* (イヤイライケレ)。

略号

() = 原文にはない追加情報

単 = 単数

複 = 複数

所属 = 所属接尾辞

挿 = 挿入子音

文献一覧

- 1 田村すず子 (1984) 『アイヌ語資料』 1. 東京: 早稲田大学語学教育研究所.
- 2 田村すず子 (1988) 「アイヌ語」 亀井孝, 河野六郎, 千野栄一編 『言語学大辞典』 東京: 三省堂.
- 3 中川裕 (1995) 『アイヌ語千歳方言辞典』 東京: 草風館.
- 4 田村すず子 (1996) 『アイヌ語沙流方言辞典』 東京: 草風館.
- 5 中川裕 (2002) 「アイヌ語口承文芸テキスト集 3」 『ユーラシア言

語文化論集』 5, 111-143 頁. 千葉: 千葉大学.

- 6 佐藤知己 (2011) 「アイヌ語千歳方言における推量の助動詞 *nankor* の意味について」 『北海道立アイヌ民族文化研究センター研究紀要』 17, 1-18 頁. 札幌: 北海道立アイヌ民族文化研究センター.

その他

- K Nakagawa, Hiroshi & Anna Bugaeva . A corpus of folktales of the Saru dialect of Ainu by Mrs. Kimi Kimura (1900-1988) [deposit 1]. ELDP, SOAS, University of London.
<http://elar.soas.ac.uk/deposit/bugaeva2012ainu>
- KS Bugaeva, Anna & Shiho Endō (eds.) (2010) *Setsu Kurokawa (speaker) & David Nathan (multimedia developer)*. 金澤版 アイヌ語会話辞典・音声 黒川セツさん [A Talking dictionary of Ainu: A new version of Kanazawa's Ainu conversational dictionary with recordings of Mrs Setsu Kurokawa]. ELDP, SOAS, University of London.
<http://lah.soas.ac.uk/projects/ainu/>



日本語に特有と言われる現象はアフリカにもある： シダーマ語（エチオピア）の場合

河内 一博（防衛大学校 准教授）

かわち かずひろ

防衛大学校総合教育学群准教授。専門は、意味論、統語論、形態論、シダーマ語、クプサビニ語。著書に「アフリカ諸語文法要覧」（共著。漢水社、2012年）など。



エチオピアのシダーマという言語とウガンダのクプサビニという言語の研究をしています。今日はシダーマ語の話です。片仮名で書くと「シダーマ」になってしまいますけれども、*Sidaama* (*sida:ma*)です。

今日の話の内容は、日本語は特殊であると言われますが、日本語とよく似た現象が、系統的にも地理的にも違う言語に見られるということです。このことを日本語とシダーマ語の比較を通して、特に人魚構文に焦点を当ててお話したいと思います。

この話の構成は、1番目として「はじめに」、2番目として「シダーマ語の文法構造の特徴（日本語の文法構造との比較を通して）」、3番目に「シダーマ語の人魚構文」、4番目に「まとめ」となっています。

◆はじめに

はじめに三つのことについてお話します。日本語の特異性についての以前の記述、言語類型論とアフリカの言語の研究、それから、シダーマ語についての情報です。3番目に少し時間を使って話します。

1. 日本語の特異性に関する以前の記述

日本語は世界の言語と比べて非常に特殊であるという考えがよくあります。それから、日本語を特にヨーロッパの言語と対比させてみると、あたかも日本語とヨーロッパの言語は両極端を成しているように

見えるかもしれませんが、世界には記述されていない言語がたくさんあります。多くの言語を見てみると、「日本語は特殊だ」、あるいは「言語が極端なタイプを成している」ということを言うことはできないわけです。このような考えに対しては、角田先生が『世界の言語と日本語』で批判していらっしゃいます。

2. 言語類型論とアフリカの言語の研究

言語類型論についての話をこれまで発表者の方々がしてきましたが、言語類型論は、文法的な特徴によって、どのような言語のタイプがあるのか、どの言語にも見られるような普遍的な特徴があるのか、違った文法の特徴の間には何か関係があるのかといった研究をします。言語類型論は、もちろん今までに研究されて記述された言語のデータを基にしています。

記述されていない言語の研究は非常に重要です。その理由として、新しい発見によって、言語類型論の主張が全く変わってくる可能性があるということがあります。世界の言語の4分の1以上が、アフリカで話されているといわれているのですが、そのほとんどが研究されていません。

研究が進んでいない言語を調べていて、今までに当然と思われているような事柄を覆すような現象や、今までに記述されている言語にはないようなパターンが見付かると、もちろん最高に楽しいのですが、系統的・地理的にも全く遠い言語の間に、類似



写真(1)

性が見られた場合も非常に面白いわけです。今日は2番目について話します。

3. シダーマ語に関する情報

エチオピアは日本の面積の3倍、人口は日本より少し少ないですが、86民族が住んでいます。首都アジス・アベバはドバイから4.5時間ぐらいです。エチオピアでは、(フィリピンと比べると少ないですが、)80を超える言語が話されています。公用語はアムハラ語です。特に南西部に言語は固まっています。エチオピアは68の行政のゾーンに分かれています。シダーマ・ゾーンはアジス・アベバから南に300km弱です。



写真(2)

シダーマ語は主に話し言葉で、書き言葉の体系はあるのですが、実際に書いている人はほとんどいません。2005年の調査では、シダーマ語の話者は300万人で、その8割以上がモノリンガルでした。高地と低地に分かれており、高地の方が伝統的なシダーマ語であると考えられていて、低地の方はかなりアムハラ語の影響を受けています。

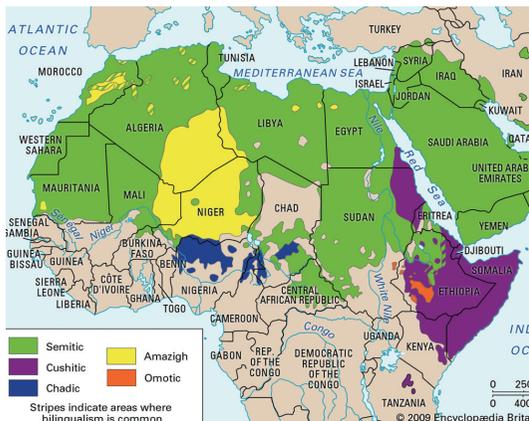
高地*Bansa*が主な私の調査地で、話し手は高地の方言を話します。*Bansa*は写真(1)、(2)のような農村です。家の中は写真(3)のようになっています。

アフリカの言語はかなり違います。地理的な言語接触によってかなり似てきているという意見が多いのですが、私の見る限りでは、シダーマ語とバントウの言語などと比べてみると、かなり違います。シダーマ語はアフロ・アジア大語族のクシ語族に属します。アフリカにはその他、ナイル・サハラという語族、そして、バントウを含むニジェール・コンゴという語族があります。それからコイサンがあります。

地図はアフロ・アジア大語族のものですが、アフリカの北の方です。紫色のところがクシです。セム語派などと比べると、かなり特徴が違ってきます。シダーマ語はハイランド・イースト・クシに属します。ハイランド・イースト・クシの文法はあまり研究されていません。



写真(3)



地図 アフロ・アジア大語族(紫部分がクシ使用圏)

kids.britannica.com

Afro-Asiatic languages: distribution of the Afro-Asiatic languages.

<http://kids.britannica.com/elementary/art-19263/Distribution-of-the-Afro-Asiatic-languages>

シダーマ・ゾーンの境界のところはかなり危険で、ほかの民族と、特に放牧地や水を巡って対立しています。

シダーマのほとんどの人が農業に従事していて、特にコーヒーを栽培しています。それから、Weeseという、写真(4)、(5)のようなバナナ科の植物を、いろいろな目的に使うのですが、その根を写真(6)のようなぬか状にして食べるのです。中に肉や野菜が入っていて、これは見かけによらず酸っぱく、あまりお



写真(4)



写真(5)



写真(6)

いしいとは言えません。

◆シダーマ語の文法構造の特徴 (日本語の文法構造との比較)

次に、シダーマ語の文法構造についてご紹介します。日本語と違う点、似ている点について話しますが、その前に基本的な文のタイプを見てみましょう。

自動詞の例文の音声をかけてみます。

例文 (1): *ise dīwan-t-anno*.

ise は「彼女が」という主語です。

dīwan- という部分が動詞です。-*t* が(アイヌ語に似ていますけれども、)3人称女性の主語の接尾辞です。主語がシダーマ語の場合には動詞の接

・自動詞の文の例

(1) *ise* *dīwan-t-anno.*
 3人称.単数.女性.主格(省略可) 病気になる.主語:3人称.単数.女性.未完結相.3人称
 訳:「彼女は(習慣的に)病気になる。」または「彼女は(未来のいつかに)病気になるだろう。」

・他動詞の文の例

(2) *ise* *isó*
 3人称.単数.女性.主格(省略可) 3人称.単数.男性.対格/斜格(省略可)
oso'li-t-anno-si.
 あざ笑う.主語:3人称.単数.女性.未完結相.3人称.目的語:3人称.単数.男性
 訳:「彼女が彼を(習慣的に)あざ笑う。」または「彼女が(未来のいつかに)あざ笑うだろう。」

・名詞述語文の例

(3) *ise* *beetto-si-i=ti.*
 3人称.単数.女性.主格(省略可) 子供-3人称.男.所有-長母音化=述部マーカー
 訳:「彼女が彼の子供だ。」

例文(1)-(3)

尾辞で表されます。-*anno* の部分がアスペクト、時間の内部構造で、これは未完結(と3人称の主語)を表します。未完結の場合には、習慣的にまたは未来において「～になる」/「～をする」ということを意味します。*dīwan-* は「病気になる」という動詞ですが、未完結形は「習慣的に病気になる」、あるいは「未来のいつかに病気になるだろう」という意味を表します。今、主語が *ise* ですが、この *ise* を省略して、*dīwan-t-anno* だけでも同じ意味を表すことができます。先ほどのアイヌ語に似ています。

次に他動詞の文として、例文(2): *ise isó oso'li-t-anno-si.* です。*ise* が主語、それから目的語が来て、動詞というパターンになります。目的語の接尾辞もあります。この文では目的語の接尾辞はオプションで、名詞句で主語と目的語を表さなくてもいいので、*oso'li-t-anno-si* だけでも一つの文になります。*oso'li-* が「あざ笑う」、それから *-t* が先ほどあったように、主語の人称と性を表します。*-anno* がアスペクトを表して、*-si* が目的語です。

(4) *isi* *isé-ra* *uddanó* *haišš-ø-ino.*
 3人称.単数.女性.主格 彼女.属格-与格 服を.対格/斜格 洗う.主語:3人称.単数.男性.遠完結相.3人称
 (a) 彼女=所有者:「彼が彼女の服を洗った。」
 (b) 彼女=受益者:「彼が彼女のために服を洗った。」
 (文字通りには、「彼が彼女に服を洗った。」)

例文(4)

次は名詞述語の文ですが、例文(3): *ise beetto-si-i=ti.* です。*ise* は「彼女が」、*beetto* は「子ども」、*-si* は「彼の」というような接尾辞です。*=ti* が述語のマーカーで、「彼女が彼の子どもだ」という意味です。文脈から明らかな場合にはこの文も主語を省略して、*beetto-si-i=ti.* (「彼の子どもだ」と言うこともできます。

◆日本語と違う点

次に日本語と比較しますが、まず日本語と違う点について、シダーマ語だけにあるもの、日本語だけにあるもの、両言語にあるけれども違いが見られるもの、それから日本語と似ている点について話します。もちろん、どこからどこまで似ていると云えばいいのか困難なので、両言語にあるのだけれども違いが見られるものと、似ているものを区別するのは、非常に難しいです。

1. シダーマ語にはあるが、日本語には見られない現象

まず、シダーマ語だけにあるような現象です。主語と目的語の接尾辞を使いますし、それから、最後の高いピッチによって対格を表します。

それから、所有の構文で「(所有者)の(被所有者)」という形式がありますけれども、これだけでなく、ヨーロッパの言語、ドイツ語などに見られるのですが、日本語の「に」に相当するような、与格で所有者を表す構文もあります。今までこのような構文は、

ヨーロッパの言語にしか見られないといわれていたのですが、シダーマ語にあります。

例えば、例文(4):

isi isé-ra uddanó haišš-ø-ino.

	通常 使われる語	Bališšaの 形式
コーヒー、[男性の名前]	buna	č'ork'e
バター	buuro	išeečča
魔術師	buda	suda
悪い	buša	suša
[男性の名前]	tuna	šuna
[女性の名前]	bune	šune/sune

表1 バリッシャ(Bališša)の例(義父の名前が *buna* の場合)

文字どおりには「彼が彼女に服を洗った」という形を取っているのですけれども、意味としては「彼が彼女の服を洗った」になります。実はこの文は曖昧で、「彼が彼女のために服を洗った」という解釈も可能です。2種類の解釈があるということです。このように、シダーマ語で一つの文が、二つの構文に解釈される場合がかなりあります。

それから、バリッシャというシステムがあります。結婚している女性と、義理の父親・母親の関係でのタブーに関するものなのですが、結婚している女性は、義理の父親・母親の名前を呼ぶことができません。さらに、その名前に似たような音を持つ語を発することもできないのです。それを避けるために、手段としては類義語を使います。類義語がない場合には、個々の語に定められた、バリッシャというシステムの形式を使うわけです(表1参照)。

例えば、義理の父親の名前が *buna* という名前だった場合、*buna* はコーヒーという意味も持つのですけれども、この *buna* という言葉を発することができません。そのため、「コーヒー」と言うには *č'ork'e* という形式を使います。同じ意味を表すのですが、音が違うのです。「バター」の場合には *buuro* の代わりに *išeečča* を使います。

もしも結婚している女性の名前が、*bune* という名前だった場合には、*bune* と *buna* が似ているので、

「あなたの名前は何ですか」と言われたら、*bune* と言えないのです。その場合、*šune* や *sune* と言わないといけません。これは文法というよりは、むしろ語彙的なものです。

2.日本語には見られるが、シダーマ語には見られない現象

日本語にはあるけれども、シダーマ語には見られない現象として、「外の関係」の関係節があります。「魚を焼くにおい」は、「においで魚を焼いた」とは言えないのですが、このような関係節は使えません。それから、主題マーカの「は」のようなものは存在しません。助数詞のようなものも存在しません。

3.両言語にあるが、違いが見られる現象

それから、両言語にあるけれども、違いが見られるような現象として、主語の省略があります。ただし、シダーマ語では、主語の情報が対述語に表されており、動詞の接尾辞として情報がありますので、少し違います。それから、動作主を表さないようにする構文があります。また、敬称があるのですが、既婚の女性だけが使います。それから、敬語の形式として、2人称単数を表すのに2人称複数の代名詞と動詞をシダーマ語では使います。それから、現在の状態を、状態変化の動詞の完了形で表します。シダーマ語では、一貫して「今暖かい」を、「暖かくなった」という完了形で表します。

それから、「なる」という語をよく使うのですが、「私たち来月結婚することになりました」とシダーマ語で言えるのです。また、「明日雨が降るようなことになったら」「合計金額は100ブルになります」とよく日本語で言いますが、シダーマ語でもこのように言います。さらに「今何時か」と言われた場合でも、「今3時です」を *t'a honse saate*

ikk-ø-ino. 「今9時になりました」(今3 時 なる-主語:3人称.単数.男性-遠完結相.3人称)と表すのです。これが普通の言い方です。(9時は、エチオピアの時間のシステムでは3時なのです。6時から12時が始まる日時計のシステムを使っているためです。)

◆日本語と似ている点

日本語と似ている点です。これは、明らかに日本語に似ているものと、そうでないものがあるのですが、このスライドでは日本語以外のほかの言語にもよく見られるような現象のものをなるべく先に置きました。接尾辞を使うこと、対格型の格の標示があること、それから、「私に～がある」というような所有の構文があることです。そして、空間移動や状態変化を表すのに、先に様態や原因を持ってきて、その後に移動あるいは結果を表すというパターンを取ります。

それから、主語-目的語-動詞の語順を取ります。名詞を修飾する場合、その名詞の修飾語が名詞の前に来ます。これはありふれているので、面白いことをわざわざ書いたなと思われるかもしれませんが、多くのアフリカの言語とは違うのです。エチオピアの言語はかなりこのパターンを取ります。

それから、言いさしと呼ばれるものです。「たら」

- 接尾辞(使役の接尾辞など)
 - 対格型の格の標示
 - 「... に ... がある」という所有の構文
 - 空間移動や状態変化を表すのに使う複数の動詞の構文 (「走り出る」、「砕け散る」)
 - (主語 -) 目的語 - 動詞の語順
 - 修飾語・句・節 - 名詞の語順
- } 他多くのアフリカの言語とは違う

日本語と似ている点

「ば」「と」など、言い切った主動詞の形式ではなくて、発話を終える構文です。「明日晴れたら」、「勉強したら」で、願望や提案などを表すことができます。これは日本語よりも、もしかしたら多いかもしれません。それから、「て」です。「コーヒー作って」と言うこともできるし、「テーブルの上にコーヒーを置きましたので」とも言えます。逆接の「けど」は、いらだちを表したり、謙虚さを表したり、あるいは「～してくれませんか」という依頼を表したりします。「アマロ先生、ダングラ君が僕のじゃまをするのですけど」と、ここで文を終えることもできます。

それから、これはよく日本語の特徴だと言われるのですけれども、イベントが不完全であるという場合で、「電話をかけたけど、出なかった」と言うことができます。あるいは、物体と場所の区別をしているのです。「～に行く」と言うことはできるのですが、人や物体を表すものが移動の目的地である場合には「花子に行った」とは言えないのです。「花子の(いる)ところに行った」と言います。それから、「二つくらい下さい」「コーヒーなどいかがですか」というような曖昧な表現もあります。

◆これまでのまとめ

これまでのようにいろいろ比較してみると、類似点かなりあります。けれども違っていますから、これらの言語は同じ系統ではないか、あるいは一方がもう一方の起源ではないかなどと言うことはできないわけです。ここで言えるのは、日本語は特殊ではないということです。それから、このような文法の特徴を基にして「日本語は極端なタイプだ」と言うことはできないわけです。

ひょっとすると、この程度にしか言えないのか、あるいは類似点と

相違点があるのは当たり前だし、どこからどこまでをもって類似していると言えるのか、分からないではないかと思われるかもしれません。しかし、日本語とほかの少数のアジアの言語にしか見られないといわれていた現象が、シダーマ語にあるのです。その例が人魚構文です。

◆シダーマ語の人魚構文

人魚構文は節、名詞、述部マーカというパターンを取ります。シダーマ語には三種類の人魚構文があるのですが、時間がなくて、ここでは二種類だけ、*gara*構文と=*gede*構文、さらにそれらのうち、述部マーカとして=*ti*を使うものだけについて説明します(表2参照)。

節		名詞	述部マーカ
(主語	動詞)		
太郎が	来る	予定	だ。
(i) <i>gara</i> 構文		<i>gara-a</i>	= <i>ti</i> .
(ii) = <i>gede</i> 構文		= <i>gede-e</i>	= <i>ti</i> .
(iii) 与格・場所格構文		- <i>ra-a</i>	= <i>ti</i> .

人魚構文

	<i>gara</i>	= <i>gede</i>
文法的な性を持つ	○	×
修飾語によって修飾される	○	×
形容詞としての用法	○	×
属格で使うことができる	○	×
項を構成することができる	○	○/×
奪格道具格と与格場所格の接尾辞を伴うことができる	○	○
「ように」を表す副詞句・節を作ることができる	○	○
継続した様態を表す構文で使うことができる	○	○
原因や譲歩を表す節を作ることができる	○	○
人魚構文を形成することができる	○	○
目的を表す節を作ることができる	×	○
補文標識として使うことができる	×	○
比較の構文で「と同じように」を表すマーカとして使うことができる	×	○

表2 *gara* と=*gede* の比較(1)

まず、*gara*構文で、名詞のスロットに*gara*という名詞を使います。*gara*は「方法」あるいは「様子」を表す名詞です。=*gede*構文の名詞のスロットに使われる=*gede*は「ように」を表す後接語です。名詞よりもっと文法化されたものです。

*gara*は名詞で、=*gede*は後接語です。この二つの形式が似ているのですが、全く関係のない形態素です。*gara*の方は、名詞だけれども、文法的な用法があつて、=*gede*の方は、より文法的なのですが、名詞的な用法がある後接語です。表2は *gara* と=*gede*を比較したのですが、表の上の方が名詞的な特徴です。表の下の方が、より文法的な特徴です。=*gede*は英語の*that*節の*that*のように使うこともできます。

主語は常に三人称で、普通、生き物(たいてい人間)です。そして、どちらの人魚構文も「～が～するようだ」という意味を表すのですが、動詞のアスペクトに違いがあつて、*gara*の人魚構文の方は未完結の動詞にしか使えず、未完結の動詞は習慣の解釈に限られています。一方、=*gede*の人魚構文の方はそれ以外のアスペクトの動詞に使えるのですけれども、=*gede*の人魚構文は未完結の動詞と使う場合は未来の解釈に限られています。

*gara*構文は「習慣的に～するようだ」という意味を表します。話し手が節で表されている出来事が習慣的に起こることを推測しています。ここで聞いてみましょうか。

例文 (6) (音声):

ise diwan-t-anno gara-a =ti.

ise diwan-t-anno. は「彼女が病気になる」という意味なのですが、=*ti*は「～である」という述部マーカです。この構文では習慣の解釈に限られますが、これは本当に人

・gara 構文の例 (未完結相: 習慣)

(6) ise dīwan-t-anno gara-a = ti.
 3人称.単数.女性.主格 病気になる.主語: 3人称.単数.女性.未完結相.3人称 様子-長母音化=述部マーカー
 訳:「彼女は(習慣的に)病気になるようだ。」←この構文で、未完結相は習慣の解釈に限られる。

・=gede 構文の例(未完結相: 未来)

(7) ise dīwan-t-anno = gede-e = ti.
 彼女が 病気になる.主語: 3人称.単数.女性.未完結相.3人称-ように-長母音化=述部マーカー
 訳:「彼女が(未来のいつかに)病気になるようだ。」←この構文で、未完結相は未来の解釈に限られる。

例文(6)、(7)

	アスペクト
(i) gara 構文	未完結相(習慣の解釈)
(ii) =gede 構文	未完結相(未来の解釈)、 近完結相、遠完結相、継続相、進行相

表3 garaと=gedeの比較(2)

可能性1: 主語の ord-u 「見かけが」が省略された

(8) ord-u ise dīwan-t-anno
 見かけ-主格.男性→省略? 3人称.単数.女性.主格 病気になる.主語: 3人称.単数.女性.未完結相.3人称
 gara-a = ti.
 様子-長母音化=述部マーカー
 訳:「彼女が(習慣的に)病気になるようだ。」(文字通りには、「見かけが、彼女が病気になる様子だ。」)

可能性2: ordó 「見かけにおいて」が省略された

(9) ise ordó dīwan-t-anno
 彼女が 見かけ.斜格(において)→省略? 病気になる.主語: 3人称.単数.女性.未完結相.3人称
 gara-a = ti.
 様子-長母音化=述部マーカー
 訳:「彼女が(習慣的に)病気になるようだ。」(文字通りには、「彼女が見かけにおいて病気になる様子だ。」)

可能性3: lab-b-anno-’e = hu 「私に思えるのは」が省略された

(10) lab-b-anno-’e = hu
 見える.主語: 3人称.単数.女性.未完結相.3人称.目的語: 1人称=名詞句形成.主格→省略?
 ise dīwan-t-anno = gede-e = ti.
 3人称.単数.女性.主格 病気になる.主語: 3人称.単数.女性.未完結相.3人称-ように-長母音化=述部マーカー
 訳:「彼女が(未来のいつかに)病気になるようだ。」
 (文字通りには、「私に思えるのは、彼女が病気になるようだということだ。」)

例文(8)–(10)

人魚構文の典型です。

それから、=gede構文ですが、=gedeは、garaよりも文法化された形態素です。先ほど申し上げたように、習慣以外のアスペクトを表すことができるので、「これから起こるようだ」「すぐに起こったようだ」「現在これから起こりつつあるようだ」といったアスペクトの形式を持つ動詞を使うことができます。

例文(7)(音声):

ise dīwan-t-anno = gede-e = ti.

これは=gedeの構文の例です。=gede構文は、ほかのアスペクトの形式を使うことができますが、こ

の例文のように未完結相は未来の解釈に限られます(表3参照)。

1.なぜシダーマ語に人魚構文が存在するか?

なぜ人魚構文が存在するのかと考えた場合、まず第一にどうやらほかの構文の一部を省略することによって、使っているのではないかと仮説を立てることができます。ordo「見かけ」という名詞があるのですが、例文(8): *ord-u ise dīwan-t-anno gara-a = ti.* 「見かけが彼女が(習慣的に)病気になる様子だ。」や *ord-u ise dīwan-t-anno = gede-e = ti.* 「見かけが彼女が(未来のいつかに)病気になるようだ」の *ord-u* 「見かけが」(見かけ-主格.男性)という主語の部分を省略すると、先ほどの人魚構文になるのです。

2番目の可能性として、ordó 「見かけにおいて」(見かけ.対格/斜格)

という対格/斜格の名詞句を被所有物として使った外的所有構文があるのですが、例文(9): *ise ordó dīwan-t-anno gara-a = ti.* 「彼女が見かけにおいて(習慣的に)病気になる様子である」や *ise ordó dīwan-t-anno = gede-e = ti.* 「彼女が見かけにおいて(未来のいつかに)病気になるようである」というような文から ordó「見かけにおいて」を省略したと考えることもできなくはないということです。

3番目の可能性として、分裂構文と呼ばれる強調構文の主語の省略です。lab-b-anno-’e = hu

「私に思えるのが」を主語にして分裂構文を作ることができます。例文 (10): *lab-b-anno-e = hu ise diwan-t-anno = gede-e = ti*. 「私に思えるのが、彼女が(未来のいつかに)病気になることである」と言うことができます。先ほど = *gede* は *that* 節の *that* のように使われると申し上げましたが、この強調構文の主語の部分を省略したのが *ise diwan-t-anno = gede-e = ti*. ではないかと解釈することもできるわけです。

さらに、これまで扱ってきた人魚構文の起源ではないかと思われるような文ですが、人魚構文と同じように、主語の人称、有生性、アスペクトなどに制限があります。

2. シダーマ語の人魚構文が存在するという ことから分かること

日本語などのアジアの言語の人魚構文から、ひょっとしたら人魚構文は主題のマーカ、あるいは外の関係の関係節がある言語に限られているのではないかという仮説を立てるかもしれませんが、いや、シダーマ語はそうではないのです。もしかすると、人魚構文を使う動機はシダーマ語と日本語では違うのかもしれない。

一方、人魚構文を持つ他の言語と類似した点もあります。*gara* と = *gede* の構文については、どうやら名詞の文法化が関わっているようです。そして、ある言語に少数の人魚構文があった場合には、その人魚構文が表す意味は話し手の出来事に対しての、推測、推量であることが多いのですが、これもシダーマ語の人魚構文に当てはまります。

◆まとめ

ここでまとめます。ほかの言語には存在しない現象をデータで示さない限り、「日本語は特殊である、極端なタイプである」と言うことはできません。それから、アジアにしかないといわれた人魚構文は、少数

ですけれども、シダーマ語にも存在します。ほかの多くの言語を見てみない限り、日本語の類型的な特徴を理解することはできないので、日本語の理解にとってほかの言語の研究は重要です。どうぞご清聴ありがとうございました。

司 会◆ジョン・ホイットマン(国立国語研究所・言語対照研究系)

パネリスト◆角田 太作(国立国語研究所 教授・言語対照研究系長)

片桐 真澄(岡山大学 准教授)

金 廷珉(慶一大学 助教授)

アンナ・ブガエワ(早稲田大学 准教授)

河内 一博(防衛大学校 准教授)

ホイットマン これからパネルディスカッションを開始します。司会は引き続き、私、ホイットマンが務めます。よろしくお願いします。

今日は長い時間にわたってご清聴いただき、ありがとうございます。聴衆の方々から幾つか質問をいただきましたので、その質問から始めたいと思います。まず角田先生に質問が幾つかあったと思います。よろしくお願いします。

角田 まず、こういうご質問をいただいています。「人魚構文の名詞の部分に表れる名詞にはどのようなものがありますか」というご質問です。この共同研究で、最終的に20ぐらいの言語について人魚構文が見つかり、その名詞を分類すると、大まかにこういう分類ができます。

まず、日本語で言う「花子さんは明日大阪に行く予定です(つもりです、計画です)」という「意志・予定・計画」を表すグループがあります。

次が、「外では雨が降っている模様です」「外で

は雨が降っている様子です」という、エビデンシャルというか、「これこれこうだな」と判断する「証拠」のグループがあります。

もう一つが、「花子さんは今本を読んでいるところです」、現在進行などの、いわゆる「アスペクト」があります。

もう一つは、例えば「私はもう学校へ行く時間です」という、「時」を表すものです。

それから、こういうものがあります。例えば「われわれはここに政府の決定に抗議するものである」という、「ものである」です。「文体を少し硬くする」わけです。あるいは「心からおわびする次第です」という、「次第」です。

いろいろ共同研究で分かったことは、どういう名詞が表れるかということ、「意志・計画」を表すグループと、「模様・様子」を表すグループ、「進行」などを表すグループ、「時間」を表すグループ、「文体的な効果」を表すグループに分かれました。

片桐先生のご発表にあったタガログ語で、「顔」が「模様・様子」を表すとありました。アイヌ語では、名詞の四つほとんどが「様子・模様」のグループでした。シダーマ語でも「様子」というような名詞が出ました。いろいろな言語で、人魚構文の名詞のところに、どういう名詞が表れやすいかということを見たら、傾向が見えてきました。

一つが、非常に一般的な漠然とした意味を表す名詞のグループ、「もの・こと・ところ」です。学生、あるいは机や椅子など具体的なものではなくて、一般



的に非常に漠然とした「もの・ところ・こと」という総称名詞が、非常にしやすいことが分かりました。

もう一つが、「模様・様子」を表すグループです。これも結構多くて、今日の発表では、ほとんど全部にありました。アイヌ語でもそうですし、シダーマ語でもそうですし、タガログ語でもそうですし、韓国語もそうです。それが大きいグループです。

それから、例外的にこんなものがあったのです。「超人間」グループという名前を付けました。ヒンディー語では「ワラー」という言葉は、語源的にはサンスクリットの「守護神」だそうです。例えば、「花子さんは明日名古屋に行く守護神だ」「花子さんは明日名古屋に行くワラーだ」と言うのですが、それは「明日名古屋に行く予定だ」ということだそうです。それから、シベリアのユカギール語で「ベン」という名詞があり、語源的には「超自然の神様」という意味らしいのです。「明日花子さんは名古屋に行く超自然の神様だ」ということで、「明日名古屋に行く予定です」ということを表すわけです。

というわけで、「どのような名詞が表せますか」という質問ですが、「予定・計画」などを表す名詞のグループ、「様子・模様だ」のグループ、「進行している、～しているところだ」のグループ、それから「これから学校に行く時間です」の「時間」のグループ、そして「文体的」なグループがあります。具体的にどのような名詞が出やすいかというと、非常に一般的な総称的なものを表す名詞と、模様・様子を表すものが非常に多い傾向がありました。

ホイットマン ありがとうございます。次に司会の私から、片桐先生に一つお聞きします。一番初めの角田先生のお話にありましたように、調査した言語の中で、結果的に10個ぐらいが人魚構文を示す結果だったかと思います。

角田 少し似ているものも含むと、20ぐらいまで行くのです。

ホイットマン 20ぐらいですか。今日、お話いた

いた人魚構文を持つ言語は、タガログ語を除いて全ていわゆるSOV、述語・動詞が文末に来る言語ですね。日本語も、アイヌ語もそうですし、シダーマ語もそうです。その中で、フィリピンのタガログ語だけ述語が文頭に立ちます。文が動詞から始まります。

片桐先生がご存じの範囲で、ほかにフィリピンの言語、あるいは台湾原住民の言語で、タガログ語と同じ語順で述語から始まる言語で、人魚構文がある言語はあるでしょうか。まだどこまで研究されているか分かりませんが、いかがでしょうか。

片桐 私の知る限りでは、まだタガログ語しか調べていませんので、ないのですが、恐らくフィリピンの言葉は、述語が最初に来る言語が全部と言ってもいいほどですから、セブアノ語などの言語にもあるかと思われます。ただし、調査していないので分かりません。すみません。

ホイットマン ありがとうございます。突然お聞きして申し訳ありません。

次に、金先生に聴衆の方から二～三つ、ご質問があったかと思えます。よろしくお願ひします。

金 私のところには、「日本語を学習する韓国話者に日本語の人魚構文を教えるときに、どのようなエラーをすることがありますか」という質問をいただいています。今日の私の発表では、人魚構文の名詞の部分で普通名詞と形式名詞の方に分けたのですが、確かに普通名詞の場合、例えば日本語の



「模様」「予定」「計画」といったような漢字の単語の場合は、韓国語でほとんどそのまま対応するので、その場合は韓国語話者にとってはそんなに難しくはないと思います。

ただ、形式名詞については、今日は詳しくお話しすることができませんでしたが、例えば日本語の「の+だ」、といういわゆる「のだ」文に韓国語の「것/kes」+「이다/i-ta」で「것이다/kes-i-ta」という文が対応するとお話ししました。ただ、形は似ていますが、その詳細を見ていくと、必ずしも一対一で対応しない場合があります。このように、そういう形式名詞の方は、普通名詞の場合に比べて、少し難しいのではないかと予測できます。

この質問を受けて気付いたのですが、私は今日、韓国語の場合、連体形の種類と名詞との共起関係にいろいろ制約がある、意味的な違いがあるという話をしました。このように日本人が韓国語の人魚構文を習得する方がむしろ難しい、またはエラーが発生する可能性が高いのではないかと思います。

ホイットマン ありがとうございます。また私から質問です。韓国語を見ても、日本語を見ても、それからタガログ語の中の一つの例もそうだったと思いますが、人魚構文の名詞の部分の述語名詞が、借用語といますか、確かタガログ語の前にはサンスクリット語からでしたか。韓国語も、借用語という意識はどこまであるか分かりませんが、やはり日本語と同じように漢語が多いと言えるでしょうか。

金 漢字語の方は、ほとんど対応していたのですが、和語に相当する韓国語の純粋な固有語の場合は、例えば「流れ」というものが日本語では使えるのですが、韓国語ではそれに該当する「흐름 / hulum」が人魚構文では使いにくいことがあるかと思えます。それから、「タイプ」や「スタイル」といった英語から来た単語も、人魚構文の中で使えます。ですから、漢字語が一番優勢で、固有名詞の方はこ

れから調査していかないといけません、英語から来た外来語も使えると思います。

ホイットマン ありがとうございます。角田先生、日本語に関しても、英語の借用語が人魚構文の名詞になる例がありますでしょうか。

角田 自動車か何かについて、「この車はこれが何とかのスタイルだ」という例文をあげます。「スタイル」はあります。それから、「タイプ」ですね。「花子さんはいつも～するタイプだ」というように、「タイプ」「スタイル」はありました。

ホイットマン そうですか。ありがとうございます。

角田 それから、借用のことで少しいいのですか。実は共同研究に小林正人先生に入っていたいて、インドのドラヴィダ語族というグループの、クルフ語という言語を研究して、その人魚構文を調べていただいているのです。インドの言葉は大きく分けて、北部はインド・ヨーロッパ語族という英語、ドイツ語、フランス語の仲間の大きい語族、南部はドラヴィダ語族という、全く別の二つのグループがあります。小林先生が研究していらっしゃる言語はクルフ語という、南部の方のドラヴィダ語族の言語で、北部の言語のヒンディー語などとは全く関係ない言語なのです。小林先生が調べましたら、クルフ語に人魚構文があって、ここに出てくる単語は、なんとサンスクリットあたりの借用らしいのです。これも借用の例ですね。

ホイットマン そうなのですか。ありがとうございます。さらに研究を深めていただくよう、ぜひお願いしたいところですね。

次に、ブガエワ先生に、アイヌ語と日本語の関係に関して幾つか質問が出たようですが、その中の一つをお願いします。

ブガエワ 「母語に人魚構文を持たない人が、人魚構文を持つ言語を学ぶ場合、あるいは逆の場合に、学習上の障害は大きいのか」ということです。

一部、発表の中で触れたと思うのですが、日本語を学ぶに当たっても、アイヌ語を学ぶに当たっても、

人魚構文は非常に難しいです。なぜなら、少なくともペテルブルグや日本で受けた日本語教育の中では、それを連体修飾構文として分析しているためです。名詞に対して関係節として分析しているので、これを全く同じように英語や日本語に訳そうとすると、非常に難しいです。訳だけの問題ではなく、そのように理解しようと思うと、なかなか頭にきれいに入りません。

ですから、角田先生のご研究で明らかになったように、単文構文として分析すると、まだ分かりやすいです。留学生などにも、そのように教えた方がいいのではないかと思います。つまり、訳す場合は、例えば助動詞や、英語のplanではなくて、going toなど、助動詞を使うと、まだ分かりやすいです。ロシア語もそうです。

ホイットマン ありがとうございます。今のご質問は、ブガエワ先生と私あてだったのですが、今のブガエワ先生のお答えと全く同意といえますか、同じような経験があります。ただ、一つ言えることは、人魚構文の場合には、その名詞部が大和言葉ですね。日本語固有の「～するつもりだ」「わけだ」です。「ようだ」は、本当は大和言葉ではないですが、日本語固有の単語として意識される語の場合には、ロシアにおける日本語教育は分かりませんが、英米の国では名詞構文、連体修飾構文として教えません。やはり区別します。

あるいは、ブガエワ先生がおっしゃったように、連体修飾の構文として教えるのは漢語です。海外の日本語教育では、後者の「～する予定です」などの方は上級か、それぐらいになるまで、あまり見ることがないと思います。ロシアはどうか分かりませんが、「つもりだ」「わけだ」「のだ」「ことだ」はすぐに教えますが、漢語で締めるものは、すぐには出てこないというのが、私の記憶ですが、いかがでしょうか。

ブガエワ 高学年までは教えません。

ホイットマン ただ、連体修飾の一種として片付



けることが多いと思います。

ブガエワ 私の経験では、ずっとずっと連体修飾として教えられたのですが。

ホイットマン ただ、「つもりだ」や「わけだ」は連体修飾として教えないのではないですか。ロシアはいかがですか。

ブガエワ 少し特徴があるのですが、やはり連体修飾の一種として教えています。

ホイットマン そうですか。ありがとうございます。

今回は大陸が変わりまして、アフリカまで行きます。次は河内先生にエチオピアの言語の多様性に関するご質問があったと思いますが、よろしくお願ひします。

河内 「エチオピアにある86言語の相違点、あるいは一致点はどの程度あるのでしょうか」という質問をいただきました。私も知識が限られておまして、クシ語派ではシダーマ語を研究していますが、カンバータ語とソマリ語等については読んだことがある程度です。セム語派については、アムハラ語とティグリニヤ語のデータを取ったことがあります。しかし、限られた知識しかありません。エチオピアではナイル語派、クシ語派、それからセム語派の言語が話されていますが、これらの類似点はどの程度あるのか、エチオピアという地域による類似点なのか、それともアフロ・アジアという系統による類似点なのかは難しい問題です。

これについては論文が出ていて、1976年のチャールズ・ファーガソン(Charles Ferguson)の“Ethiopian Language Area”という論文が、ベンダー(Lionel Bender)の*Language in Ethiopia*という書物に入っています。この論文でエチオピアという地域の言語の特徴が幾つか挙げられているのですが、例えば/p' /, /t' /, /k' /といった放音や、「修飾語+名詞」の語順を取る等、他の地域の多くの言語でもあるような文法的な特徴が挙げられているのです。これに反論する形で、トスコ(Mauro Tosco)という人が“Is there an “Ethiopian Language Area”?”という論文を*Anthropological Linguistics*に2000年に書いています。

一つ、これはエチオピアの特徴ではないかなと思われるのは、「～言う」というイデオマティックな表現です。例えば *sammi ya* はシダーマ語では「静かにする」という意味で、*sikk'i ya* は「近づく」という意味で、全く無意味な語の後に「言う」(*ya*)という動詞を付けて形成されるイデオマティックな表現があります。他動詞の表現は、doあるいはmakeを表す動詞を使います。エチオピアの言語の特徴と言えるのは、その程度だと思います。詳しくはこの二つの文献をご覧くださいだと思います。

それから、人魚構文については全く分かっていません。エチオピアのリサーチ仲間にも尋ねたのですが、どうやら今のところはないようなのですけれども、全く分かりません。

ホイットマン ありがとうございます。

次に、角田先生にもう一つ質問をお願いしたいと思います。人魚構文をSOV構文、つまり述語が文末にある構文として、どう扱うかという質問です。

その前に一つ、司会として言い忘れたことがあります。それは「人魚構文」という名称です。所長のお話にあったように、英語のMermaid constructionとなりますが、それは私のお隣の角田

先生が作った名前です。これが、またも日本語から出発して国際的に知られるようになるのではないかなと思う言語現象です。ありがとうございます。よろしくお祈りします。

角田 「文の構造はどういう構造ですか」というご質問だと思います。確かに奇妙な文ですね。例えば「花子さんは本屋さんで本を買う予定です」。普通、私たちが学校で習った文法で言うと、「買う」という述語があって、「予定です」という述語があって、一つの文に二つ、述語があるわけで、変な文ですね。今ホイットマン先生とブガエワ先生がおっしゃったように、これを連体修飾と見るかどうか。例えば今までの研究を見ていると、「花子さんは本を買う予定です」は、「花子さんは本を買う」までが連体修飾節で、後ろの名詞を修飾しているという分析があったのです。例えば高橋太郎先生や奥津敬一郎先生、寺村秀夫先生はそういう分析をしていて、ロシアでも日本語教育ではそういう分析を使っているというお話でした。

ところが、高橋先生は後にお考えを変えて、「花子さんは」が主語、「本を」が目的語、「買う予定です」が複合的な述語であるというように考えました。細かく見ると、「買う」という述語があって、「予定」という名詞があって、「です」という述語がある。細かく見ればそうですが、高橋先生は「買う予定です」が全部で複合的な述語と見るのがいいのではないかなと言っています。そういう構造です。私もその考えがいいと思います。

このご質問は、「SOV構造の主語、目的語、動詞と分析するとどのようになりますか」ということですが、「花子さんは」が主語、「本を」が目的語、「買う予定です」が全体で複合的な述語と見るのがいいと思います。ご質問の方、そういうことでお答えはいいでしょうか。

ホイットマン ありがとうございます。今の質問とその答えに関して一つ確認なのですが、人魚構文

を構文的に定義すると、その性質は何なのかというと、角田先生がおっしゃったように、やはり主語が全文の主語であるということです。単なる連体修飾ならば、「太郎が大阪に行く予定」とすると、そこで終わってしまうのですが、「太郎は明日大阪に行く予定です」と言うと、「太郎」が全体の主語となるのが一つの特徴だと思います。片桐先生のお話でも、金先生のお話でも、ブガエワ先生のお話でも、それぞれの言語では人魚構文といわれる言語に出てくる主語は、文全体の主語であることが明らかになっていたと思います。

河内先生のお話によると、私の理解が不十分だったのかもしれませんが、シダーマ語の場合には、主語と述語の標示と申しますか、その語尾のようなものがありますが、人魚構文の場合には、それが決まって三人称だとおっしゃったかと思えます。とすると、その三人称の標示は、主文に表れるものですか、それとも名詞の前の動詞に表れるものですか。

河内 主語は必ず名詞の前の動詞に接尾辞として現れますが、述語のマーカにも標示することができます。述語のマーカとして、今日は意識的に *=ti* しか使っていなかったのですが、実は *gara* 構文にしても、*=gede* 構文にしても、もう一つサブタイプがありまして、ほぼ意味は同じなのですが、述語マーカとして女性形の *=te*、また男性形の *=ho* を使う人魚構文の形式があります。人魚構文以外の文脈においては、一般に、修飾された名詞が述語である場合に *=ti* を使います。修飾されていない名詞が述語である場合には *=te*、または *=ho* を使います。

例えば「彼女は怒ったようだ」と言う場合、*ise* が「彼女が」、*hank'-it-ino* (怒る-主語:3人称.単数.女性-遠完結相.3人称) が「怒った」で、*ise hank'-it-ino = te*。「彼女が怒ったようだ」と *=te* を使うのです。*=ho* は使えないのです。ですから、主語

の性が主文の述語のマーカに標示されていると言えらと思います。

ホイットマン 分かりました。結論としては、人魚構文を示す四つの言語にも、日本語にも、主語が主文の主語であるという根拠が明らかにあるわけですね。ありがとうございます。

もう一つ、私あての質問がありました。個別発表に入る前に英語の変な例文をあえてお示しましたが、この英語の例文についてのご質問です。お答えする前に一つ申し上げておきますと、今日のフォーラムでは何度も「太郎は明日大阪に行く予定です」と出てきました。われわれの研究所の所長は太郎というお名前ですが、「太郎」を使ったのは意図的ではなく、日本語学者が例文を作るとき、一番典型的な名前を使うことが多いですね。男性の場合には「太郎」、女性の場合には「花子」となります。そういう意味で所長は少し不幸な面もあると言えるかと思えます。同じように英語となると、言語学の統語論の例文を作るとき、男性の場合にどの名前を使うかとうい、私の名前の「ジョン」なのです。ですから、その不幸は所長だけではありません。私も同じ不幸な立場にいるわけです。

さて、私あての質問は、「太郎は明日大阪に行く予定です」を英語に直訳すると、*be* 動詞を使ったのですが、「そういう英語の場合には *have* を使うべきではないか」という質問です。まさにそのとおりです。私が言った英語の文章では、*be* 動詞を *have* に直せば全く申し分のない英語になるわけです。Taro has a plan to go to Osaka. となります。「*be* 動詞と *have* の区別がない言語もたくさんあるではないか。日本語で『だ』『である』で締める文章は英語となると、簡単に *have* に直せば同じ構造ではないか」というご質問です。

それに関して、私は、特に日本語が母語の先生方一つ質問したいと思えます。日本語の人魚構文の場合にも「だ」「である」を「が～ある」に直せ

る場合もあるのではないかとことです。例えば、「太郎は明日大阪に行く気だ」は少し苦しいかもしれませんが、「君は明日大阪に行く気か」など質問のときに使うと思いますが、「太郎は明日大阪に行く気があります」とは言えないでしょうか。つまり、日本語の「である」が、「ある」に交替するようなものはないでしょうか。角田先生もこの辺のお考えもあると思いますが。

角田 「つもりがある」は多分言えますね。「太郎さんは明日大阪に行くつもりがある」。少し言いづらいいけれども、言えないことはないと思います。これはhaveではなくて、existです。だから、ご質問の趣旨と少し違うと思うのですが、「ある」だと、多分「存在する」という存在動詞ですから、所有動詞ではないので、そのままhaveには当てはまらないと思うのです。少し違うと思います。

ホイットマン 分かりました。ありがとうございます。

角田 例えば、「太郎さんにお金がたくさんある (Taro has lot of money)」これは「ある」がhaveを表すというよりも、「太郎さんにお金がたくさん存在する」という意味であって、訳せば英語のhaveになるだけのことだから、やはり「ある」をhaveと同じと見るのは、まずいと私は思うのです。だから、「だ」は、have構文とは違うと思います。

ホイットマン ありがとうございます。

もう一つ、各先生方に対する質問です。先ほど角田先生のお話の中で、人魚構文はそこで出てくる名詞部分にいろいろ種類があって、例えば「模様だ」「様子だ」、それから「計画」のようなものもあって、あまり意味がない「ことだ」「ものだ」などもあります。

今回の話を聞いていて、特に人魚構文の種類が少ない言語の場合に、気が付いたことは、タガログ語もそうですし、シダーマ語もそうだったので、そこにあった数少ない人魚構文の例としては、やはり「模様だ」「ようだ」というようなものが出てきま

した。そこから出てきた疑問ですが、「人魚構文の中に、あるいは人魚構文の分布に関しては、何らかの階層があるのではないか」ということです。もし人魚構文が一つの言語に存在するとすれば、「模様だ」「様子」「ようだ」のようなものがあり、その次に、また別の種類の名詞が出てくるというような一般化はないでしょうか。よろしくお願いします。

角田 宮地朝子先生に『万葉集』と平安時代における人魚構文を調べていただいています。平安時代の文学作品で、ちょうど現代語で「～している模様だ」「様子だ」というところを、「姿、形」という名詞を使っています。その仲間なのです。言えることは、もしある言語に人魚構文が存在したら、そこに表れる名詞には「様子」などのグループの名詞が出るだろうという一つの可能性はあります。もう一つは、やはり非常に一般的な「こと、もの、ところ」などが出やすい言語です。タイプが二つあるらしいのです。

琉球の伊良部の言葉を調べていただいた下地理則先生のご研究ですと、琉球の伊良部では、「はず」は一般名詞とは言いにくいけれども、「こと」「人」「ところ」など、非常に一般名詞が出やすいので、もしヒエラルキーがあるとしたら、2種類ある感じがしますね。非常に一般的な名詞が出やすいヒエラルキーと、「様子、模様」が出やすいものという、二つのタイプがある感じがしました。

ホイットマン ありがとうございます。そうしますと、その階層の中で一番珍しいといいますが、例文数が少ないものとしては、「予定だ」「つもりだ」などはどれぐらいの数の言語にあるのでしょうか。

角田 日本語の例文を挙げるときは、すぐ「予定」を取り上げてしまうのですが、いろいろな言語を見ると、「予定」と言える言語はそれほど多くはないですね。韓国語は言えますが、今日のシダーマ語でも、アイヌ語でも、タガログ語でもなかったですね。だから、おっしゃるとおり、正確に幾つということは分か

りませんけれども、「予定」を使える言語はそんなに多くはないのです。申し訳ございませんが、正確に数は言えません。

ホイットマン ありがとうございます。

今まで文法の言語学者が好むような話を延々とさせていただいて、ご聴衆の方から「言語学者は、よくもこういう文法を限りなく論じるものだ」と言われそうです。いただいた質問の中に、文化に関する質問も幾つかあったので、それに関して金先生、それからブガエワ先生にも、ひとつお話ししたいと思います。

金先生の場合には、今日のテーマと直接に関係がないと言いながらも、韓国語における人魚構文には、漢語で終わる、漢語で締める例文がたくさんあったのですが、その関係で、韓国語における漢字の使用に関する質問がありました。それに関して、ひとつご説明いただけますか。

金 多分、名詞の方に漢語がたくさん出てきたので、気になったかもしれませんが、韓国における漢字教育の実態について、何人かの方に聞かれました。私が小学校のときは毎朝、学校に行ったら新聞があって、そこで一文字ずつ漢字を勉強しました。中学校に入ったときは漢文という科目があって、いわゆる送り仮名を付けたりして、中国の漢文を勉強する科目がありました。

詳細は忘れましたが、ハングルを使う運動も韓国でありました。昔、韓国は植民地の名残で新聞の方も縦書きで漢字を併用していましたが、植民地の名残をなくそうという傾向もあって、すべてハングルで表記することになって、縦書きも止めて、新聞なども横書きに全て直しました。そうしますと、問題になるのは同音異義語です。例えば「今日の発表の感想を聞かせてください」の「感想」と、映画鑑賞の「鑑賞」があるのですが、すべて韓国語では「감상/kamsang」と言って、音が同じです。そのように、読んでいて文脈上分かりにくいと思われる単語に関してはまずハングルを書いた上で、括弧の中に漢字

を併記するような形になっています。

今現在、私は大学1年生にも教えていますが、高校でも漢字を勉強しているとは言っていました。ただし、自分の名前は書けるのですが、親の名前などは漢字で書けない人もいます。それから、私の名前は漢字がありますが、固有語に由来する名前をもつ場合も多くて、名前自体に漢字がない学生もたくさんいます。日本語ほどではありませんが、学校教育として漢字を教えることは教えます。ただし、実際に日本語のように書く機会はなかなかないので、漢字能力は非常に衰えているような状況です。

ホイットマン ありがとうございます。今の質問にも関連しますが、先ほどのお話にあったように、韓国語の人魚構文は、日本語と同じように漢語からなる例がたくさんあるということです。単純に考えると、表記から漢字をなくすれば、そういう単語もなくなるのではないかと思いがちかもしれませんが、言語学者として一つ申し上げたいことは、漢字と漢語は別なものだということです。文字を変えても漢語は残ります。

現在、韓国では漢字を公のところで使わないことになっていますが、私の印象なのですが、韓国語にある漢語、つまり由来が漢字語、もともと漢字があった単語で、中国語から借用された漢字由来の語彙が、数字で見ると、日本語における漢語より多いと思います。75%か80%と聞きますが、それはいかがでしょうか。そういう数字になるでしょうか。日本語より多いという印象は当たっていますか。

金 そうですね。漢語は確かに多いです。ただ、おそらくどれが漢語かということを若い人は意識していないと思います。例えば「感動」や「感想」などが漢語ということは分かるのですが、全ての名詞について「この名詞は固有名詞だ」とか、「これは漢字語だ」という意識はあまりないのではないかと思います。

漢字語には中国語から受け入れたものと、科目の名前などのように日本で英語を漢語に訳したものが韓国語に入ってきたものがありますね。「哲学」や

「英語」や「数学」といった単語は日本から受け入れて、それが普通に一般の生活で使われているので、多分、今の若い人は、意識はしていないと思います。

ホイットマン ありがとうございます。最後のご指摘はまさにそのとおりです。特に江戸時代に入ってから、日本に蘭学があり、英語の文献を漢文に訳すことが中国・韓国よりも盛んに行われたので、日本語から和製漢語、日本製漢語が韓国語や中国語に入ったものがたくさんあるわけですね。ありがとうございます。

もう一つ、表記に関する質問です。今おっしゃったように、漢字がなくなって、若い人たちは何が漢語なのか、何が純粹たる韓国語なのかの意識がなくなると、漢語で発音と同じ同音の言葉がたくさん出てきますが、そういう場合にはハンゲルの文章を見てどうやって分かりますか。日本語の場合には、漢語を全部仮名で書こうとすると随分読みづらくなる印象がありますが、韓国語の場合にはどうしますか。

金 例えば「今日の発表の感想を聞かせてください」の「感想」は「감상/kamsang」ですが、多分、前後の文脈から分かるということがあります。特に新聞記事の場合には括弧で漢字語併記されているので、これが「感想」なのか、例えば「鑑賞 감상/kamsang」なのかは、同じ発音でも漢字が違うので、漢字の表記を知っている人であれば、そこで見極めることができます。

漢字がない場合でも、その文を読んで、例えば「映画鑑賞」だったら、絶対に「映画」が付いているので、「鑑賞」です。「映画を見た感想を聞かせてください」と言ったら、多分それで「感想」だということが分かります。

ホイットマン 分かりました。ありがとうございます。もう一つ気が付いたのですが、日本語の仮名文と違って、ハンゲルの場合には、分かち書きをすることも助けになるのではないのでしょうか。

金 そうですね。日本語の場合、全部平仮名で書いてしまいますと、どこが助詞の「が」なのか、「を」なのか、というのが区別しにくくなってしまいます。留学生にとっても、最初は平仮名で書くのですが、どんどん学習のレベルが高くなるにつれて、むしろ平仮名で書くのがじゃまで、漢字語で書いた方がかえって読みやすい、分かりやすいということが、日本語教育分野で言われています。でも、ハンゲルは文字の作り方が違いますし、分かち書きをしますので、ハンゲルで書いても、日本語ほど混乱はしないですね。

ホイットマン ありがとうございます。

引き続き、アイヌ語に関して、言語と文化の関係でご質問があったかと思いますが、よろしくお願ひします。

ブガエワ 文化についての質問はありませんでしたが、日本語の起源についての質問がありました。「日本語の起源に興味があるのですが、最近の結論はどうか」という質問です。それから、「言語の起源を探るときに、人類学の結果とDNAの結果をどうやって使うか」という二つの質問がありました。

日本語の起源には、私も非常に興味を持っています。去年の7月に大阪で大きな歴史言語学会がありました。たまたま興味があって、そこに行ってみたのです。私自身がその問題から15年ほど離れていたもので、他の研究者の研究の結果を聞きに行きました。実はここにいらっしゃるホイットマン先生が歴史言語学の大家です。15年でどれくらい進んでいるか、結論を言いますと、まだ分かりません。ただ、最も有力な説は、相変わらずアルタイ説ではないかと思っています。アルタイ説はモンゴルの諸言語、そしてチュルクの諸言語、ツングースの諸言語と一緒にアルタイ語族を成していて、日本語、また韓国語もここに入っているのではないかという定説があります。でも、未だにかなり難しいです。

歴史言語学には、とてもきちんとした方法があり、

語彙の何%など、基礎語彙が少なくとも一致しないと、何の結論も出せません。大阪で多くの皆さんの発表を聞いても、何も結論がないので、影山先生から「日本語が孤独のようです。それだと少し寂しいので、少なくとも、仲間に韓国語ぐらいは入れてください」というご発言がありました。韓国語と日本語は、文法的に自動翻訳できるぐらい似ています。ただ、語彙のレベルではかなり難しいようです。もしかすると、アルタイ語族の中で、韓国語と日本語はもう少し距離が近いかもしれないという結論でした。

もう一つの説としては、もともと日本語はオーストロネシア語族から影響を受けているか、オーストロネシア語族の言語で、アルタイ諸言語から後に影響を受けている混合の説ですね。オーストロネシア+アルタイです。片桐先生が研究されている言語と金先生のご研究の言語の混合、その結果が日本語であるという説です。アイヌ語については分かりません。なぜかという、方言についてまだ十分に明らかになっていないためです。アイヌ語のように古い文献がない言語だと方言を調べるしかないのですが、方言の情報が完全ではないので、今は何とも言えません。

もう一つのご質問、人類学などの結果をどのように使うかということについてですが、実は言語の起源と、民族性、どのような血を引いているかということは別物のようです。不思議なのですが。

一つの例を挙げたいと思います。私の母語はロシア語です。スラブ語族に属しています。スラブ語族は大きくは、インド・ヨーロッパ語族に属しています。スラブ語族のもう一つの言語に、ブルガリア語があります。ただ、典型的なロシア人とブルガリア人を比べてみると、顔がだいぶ違うと思います。ブルガリア人はあくまでもトルコ人に似た顔をしている人が多いです。ブルガリアはトルコのオスマン帝国支配下に置かれた時期がかなり長く、500年以上ありました。ですから、その遺伝子、DNAを調べてみると、

トルコ人と近い結果になります。でも、言語をみると、ブルガリア語とロシア語は非常に近いです。

ホイットマン ありがとうございます。今のブガエワ先生のご指摘を受けて、最後の質問にしたいと思いますが、角田先生に対する質問です。今のブガエワさんのお話で、言語の間の関係の一つとして、同起源、同じ語族に属するような関係があるということでした。例えば先ほどのブルガリア語とロシア語がそうです。もう一つの関係としては、河内先生のお話に出てきた言語地理学による考えで、言語地域という概念があります。

ブルガリア語が話される場所は、バルカンというのですが、西南ヨーロッパです。そちらに別語族の言語が幾つかありますが、語族の起源が違うのに特徴が非常によく似ているところがたくさんあります。このように、西南ヨーロッパが一つの代表的な言語地域としてよく知られていますが、もう一つは、河内先生がお話しされたエチオピア、東アフリカなのですが、そこも一つの言語地域だと言えます。幾つか全く起源が違う言語、あるいはほぼ起源が違う言語がたくさん話されていますが、文法・音韻、いろいろな特徴を見ると類似するところがたくさんあります。

人魚構文が20ぐらいの言語にあるとすると、一つの一般化になるかと思います。東北アジアには日本が当然入ります。韓国語も入ります。アイヌ語も入ります。シベリアの言語も入ります。今まで東北アジアを一つの言語地域として考える研究は多くありませんでしたが、角田先生の共同研究プロジェクトの中で、人魚構文その他の研究により、日本、韓国、ロシアのシベリアを含めた地域が、一つの言語地域として成り立つのではないかという可能性が出てきました。これが、今回の共同研究の一つの成果だと思いますが、先生はいかがお考えでしょうか。

角田 今のご質問とご指摘の他、こういう質問がありました。「人魚構文がある言語とない言語で、共

通の特徴がありますか。どうして、ある言語に人魚構文があって、ある言語にないのですか」。これに関係します。お話したとおり、今まで見たところ、人魚構文が見付かった言語のほとんどは、主語、目的語、そして動詞が最後の言語なのです。しかし、主語、目的語、動詞の順番なら、必ずあるかというところではなくて、アジアにたくさん言語がありますが、そのうち見付かったのは二十近くです。面白いことに、同じような語順を持った言語でも、隣の言語には人魚構文がないことがあります。だから、どういうところに人魚構文があるか、ないかを答えるのはなかなか難しいのです。特徴を見ても分かりません。

ホイットマン先生のご質問に戻ります。東アジアにどうも多いようで、日本語に見付かって、琉球諸語にもあって、アイヌ語にもあって、韓国語、シベリア南部のコリマ・ユカギール語、あとはモンゴル語にもあ

り、満洲語にもあるらしいです。中国語もあります。少し先に行って、チベット語などもそうです。どうも東アジア中心にこういう構文があるらしいのですが、先ほどお話したとおりに、いろいろタイプが違うのです。中国語などは主語、動詞、目的語の順番で、日本語と違うのです。それでもあります。ということで、どうも人魚構文は、日本語を中心としたアジア諸言語に共通の特徴なのではないかと思えます。

もしかしたら日本語とアイヌ語は、もともと起源の違う言語だったかもしれません。でも、こうやって近くになって、ずっといる間に、何らかの統語の影響を受けて、日本語、アイヌ語を含めて、この地域の言語が、こういう特徴を持つようになったという可能性があると思えます。ということで、お答えはいいでしょうか。



編集後記

平成24年3月24日、第5回NINJALフォーラム「日本語新発見—世界から見た日本語—」を一橋記念講堂にて開催しました。フォーラムの開催趣旨は次のとおりです。

国内外の講師も交えて外国語から見た日本語、そして日本語から見た世界諸言語について講演してもらいました。また、日本語の特徴と思われるさまざまな現象を取り上げて、外国語にも存在するのか、存在しないのかについて検討しました。特に4つの言語——オーストラリアのワログ語、フィリピンのタガログ語、エチオピアのシダーマ語、韓国語、アイヌ語——に焦点を当てて日本語との比較を行いました。比較の主なテーマは、「太郎は大阪に行く予定です」という形の構文を考察することです。このような構文は、頭の「太郎が大阪に行く」までは動詞述語文ですが、しっぽの「予定です」は名詞述語文です。頭としっぽとが性質が違うので、「人魚構文」と呼ばれます。

「人魚構文」は毎日、何気なく、日本語では使われる表現ですが、欧米諸言語には存在しません。例えば、英語ではTaro is a plan to go to Osakaとは言えません。そのため、「人魚構文」は日本語の大きな特徴の一つであるわけですが、調べてみると、他の言語にも存在します。お隣の韓国語、アイヌ語で人魚構文を使うことはさほど意外ではないにせよ、フィリピンのタガログ語とエチオピアのシダーマ語にも「人魚構文」が存在するのはなぜなのか、ということについて、言語学者の立場から検討し討論しました。

本フォーラムが、日本語の特性、そして言語の普遍性についてより深く考えるきっかけになれば幸いです。

国立国語研究所 ジョン・ホイットマン

NINJALフォーラムシリーズ 3

国立国語研究所 第5回NINJALフォーラム

日本語新発見

—世界から見た日本語—

2013(平成25)年6月21日

発行:人間文化研究機構 国立国語研究所

〒190 - 8561 東京都立川市緑町10 - 2

TEL 042 - 540 - 4300

FAX 042 - 540 - 4333

<http://www.ninjal.ac.jp>

撮影 田保橋 良

印刷 ヨシダ印刷株式会社



国立国語研究所

ISBN 978-4-906055-30-2